

[illegible]

[illegible]

合計

四六一五二四〇

三六二四〇一〇

名古屋支店

本年
数量
代
年
末
日
價

前年同時ト比較増減
数量
代
價

難
搾
糟

京都出張所

本年
数量
代
年
末
日
價

前年同時ト比較増減
数量
代
價

穀
類

肥
料

紡
績
糸

小樽出張所

本年
数量
代
年
末
日
價

前年同時ト比較増減
数量
代
價

穀
類

三四、八七九
〇〇

二二六、三二六
九〇五

三、八五〇
〇〇

九、五七三
一〇〇

二二、七六三
八〇五

11

本年中本行重役以下行員及雇員の異動及年末現在員名等

231

守衛	小度	合計	總計
四	三九	八八	三〇三
五	三三	七五	二八〇
四六	九一	二七一	一〇五〇
二四	一五	七〇	四三一
九	三	六	九五
一	六	一三	二一

右採用及退罷内には昇級及轉任のものは或食む或以下此等の數に降き本年中實際進退に係るものは代奉り人の理事一名欠員、監事一名増員、行員新規採用のものは五十九名病氣其他の事故に依り解傭せしもの四十名病死せしもの十名外は文配役より監事に就任せしもの一名より都合八名を増加せり

又前表中年末現在員と本文店及出張所の區別し各職員一箇年俸給額及一人平均額を算し尚其總額と前年と比較すれば左の如し

本店 支店 西店 北海道支店 倉庫番 札幌出張所 京都事務所 仙台出張所 小樽出張所									
人賃俸給	人賃俸給	人賃俸給	人賃俸給	人賃俸給	増割	人賃俸給	人賃俸給	増割	人賃俸給
一六〇〇									
理事	三六〇〇								
監事	三三〇〇	一三〇〇							
文書長	五二〇〇	一三五〇				一五五〇			
國文長	八五〇〇	二五〇〇	一五〇〇	一五五〇	三〇〇〇	一五〇〇			
事務長	一五五〇								
以上事務 合計	三四〇〇	四六〇〇	一五〇〇	一五五〇	三〇〇〇	二五五〇			
							二五五〇	三三〇〇	一五〇〇
書記	三三〇〇	六五〇〇	五二〇〇	四八〇〇	三六〇〇	二五〇〇	三三〇〇	二五〇〇	三三〇〇
手代	一五〇〇	五五〇〇	三三〇〇	八〇〇〇	三三〇〇	四八〇〇	五〇〇〇	一五〇〇	一五〇〇
見習	七五〇〇	三三〇〇	二二〇〇	一五〇〇	五〇〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇	三三〇〇

[illegible]

人員	年俸總額	前年ト比較増減	平均人員	年俸總額
總裁	一	・	・	。
理事	三	一	・	三
臨事	四	一	・	一
正副文配役	三	一	三	三
書記	四	四	八	一
手代	三	三	三	三
見習	一	七	一	三
寺衛長	三	。	一	三
寺衛	四	一	二	。
小使	九	八	八	一
合計	二	二	二	二

又前來所掲の本行重役につき其就任退職及其節ぶりの叙
勲任命等の主たるものを擧ぐれば左の如し

○第三十一回定式總會より昨三十年九月四日議員とな
りたる監事一名の補欠選挙が行ひしに三田信太郎多敷
より當選したる

○二月二十八日理事山本達雄農工商高等會議員仰付られ
たる

○第三十二回定式總會より於て本年未滿期退職となつた
理事薄井佳久の後任者として擧げられ上大蔵大臣より具申せし
に尚薄井佳久の後任代命せられ又同年末より於て満期の
監事廣瀬幸平三田信太郎の後任者として總會より選挙せし
兩名共多數より重任せり

○十月廿日總裁岩崎彌之助へ左の叙勲あり

日本銀行總裁正四位勲四等男爵岩崎彌之助

叙勲三等授旭日中綬章

○十月二十日總裁山左の文送り

日本銀行總裁正四位勲四等男爵岩崎彌之助

依願免日本銀行總裁

勲四等 山本達雄

日本銀行總裁被仰付

○十二月二十八日總裁山本達雄の左の如く任託之賜付

たり

叙正五位

勲四等 山本達雄

又文書受付昇進の景況を表記し之と前年と比較せられ
左の如し

受付	本年	前年ト比較増減
昇進	合計	受付
昇進	合計	昇進
昇進	合計	昇進

本店	大阪支店	西新支店	北海道支店	名古屋支店	札幌出張所	京都出張所	台北出張所	小樽出張所	合計	本年				前年と比較増			
										取扱総数	一日取扱平均高	取扱総数	一日取扱平均高	取扱総数	一日取扱平均高	取扱総数	一日取扱平均高
三三、五二一	四、五〇八	一、六〇五	二〇、七六四	五、四九六	四、九六二	三、八三二	一、七三三	七、七三五	七、七三〇	三、四八五	六、四三三	一、八七九	一、八七九	一、五三九	一、五三九	一、五三九	一、五三九
三、四八五	六、一五五	一、五三八	八、一六九	二、四四三	三、三五四	五、七〇九	一、三七八	一、五七五	八、七四三	六、四三三	一、八七九	一、八七九	一、八七九	一、八七九	一、八七九	一、八七九	一、八七九
六、四三三	二、〇六六	二、五七三	一、九六九	一、九三三	一、〇三六	九、〇七〇	三、三三三	一、八八二	一、八八二	一、八八二	一、八八二	一、八八二	一、八八二	一、八八二	一、八八二	一、八八二	一、八八二
一、八七九	五、三〇九	一、八二三	五、三二四	一、三九八	一、九六四	四、九六	六、一八八	六、四七九	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三	一、三三三
一、五三九	一、三二八	五、一五五	二、七九八	四、四四五	二、四三三	八、九七	六、三三六	一、八〇三	一、八〇三	一、八〇三	一、八〇三	一、八〇三	一、八〇三	一、八〇三	一、八〇三	一、八〇三	一、八〇三
一、五三九	一、五三九	六、六八八	八、〇七三	五、七四三	四、三六	六、四八	一、三三三	一、五三九	一、五三九	一、五三九	一、五三九	一、五三九	一、五三九	一、五三九	一、五三九	一、五三九	一、五三九

又右取扱文書總數を國庫營業此兩部に分ち其一日の取扱平均高を算けり前年の比較を左の如し

國庫部

本 店	三九、三六二	一三八一	三三、九七三	一二〇
大阪支店	七、四六八	三、五七	九、七八〇	三三
西部支店	一、三五四	七	二、四九	一
北海道支店	二、四、五二七	三、七七	五、九、四〇〇	一九五
名古屋支店	二、二、〇一一	三、六八	二、〇、六三八	一四
札幌出張所	八、五、六三一	二、八一	五、四八〇	一六
京都出張所	五、五、三九八	二、一五	一、五、三三	七
台北出張所	一、六、六、四五三	五、四八	八、一、〇七二	二九〇
小樽出張所	六、三、六六	二一	五、六、七二	八
合計	一、〇、九、三五一	三、三、五五	一、五、〇、八八〇	四、四四
本 店	三、五、六、〇七一	八、四二	一、三、九、九、九	四、六、九
大阪支店	三、一、一、九四	一、一〇	七、七、七三	三六
西部支店	三、三、七、二九	七、八	六、七、二九	三三

營業部

北海道支店	八三、四一六	二七一	二〇、五六三	六六
名古屋支店	八六、三〇六	三八四	三六、八五	九二
札幌出張所	一四、七三五	四八	一、〇六四	四
京都出張所	三三、五七二	八四	六、九五	二三
台北出張所	五九、五七九	一八六	四三、三三三	一四三
小樽出張所	一三、四四四	四四	一、八四三	七
合計	五九、九五六	一九四七	九、四四	一〇八
總計	一、二二、三〇七	五、三三二	一四、一九三六	三三六

又本年中業務の要項を擧ぐるに左の如し

○一月一日 東京交換所組合以外の銀行の宛てゝる手形

小切手と本行に於て交換は済することと我廣止す

○一月十一日 英照皇太后御一周年祭に付大蔵大臣の認

可を得て本文店出張所共臨時休業せり

○一月十二日 給料仕掛規則を定む

○二月一日 新に検査局を置き本文店出張所及派出所並
代理店に於ける事務の検査を取り扱はしむるを以てし
從來文書局第二課に於て取扱ひたる統計及調査の事
務を検査局に移し

○二月一日 回議回覧書留簿様式を定む

○二月十四日 本店物品保管規則を定む

○二月十九日 當銀行第三十一回定式株主總會に引續き
臨時株主總會を開き定款第十九條下第二項追加の件
并本行事業上の都合より資本入金を増加を必要と
し條例第十九條及定款第十九條末項の據と資本入金残額
七百五十萬圓即ち新旧株を通し一株につき金五拾
圓追募するに付之に對する払込金戸三十年下半季に

於予の特別配當金を以て其儘之を充當するの件を討
議の附し金會一致代以て可決し、之に付直ニ大蔵大
臣、諸卿し即日允許を得同月廿一日悉皆之を振替へ
其旨登記を經より是歟追加の條項は左の如し

第十五條 第二項

株券は一株一通、五株一通、十株一通、百株一通、千株一通、
の五種とし株主の選擇より種類を交付する但株主は
規定の手数料を仕拂ひて株券の種類變更を請求する
ことを得

○二月二十四日 検査局事務假章程を制定す

○二月二十五日 理事河上謹一は副文配役伴藤欽亮外書
記一名を随へ銀行業務視察を為政米諸國へ出張す（
十月五日歸朝）

○三月一日 回議回覽書類の回付手續決定す

○三月一日 本店備品保管主任決定す

○三月十六日 検査局検査規程の制定す

○三月十九日 本行事務取扱并取締向は本文店及出張所
共畫一とし人々之趣旨を以て貸付割引不動産
現傳票捺印金融報告現金過不足等之関する連示を為
す

○三月廿四日 検査手續の定む

○三月廿四日 金銀貨幣引換順序の規定す

○四月二日 本日より大蔵大臣の命達に基き横濱神戸西
地に於て金銀貨幣交換事務并中央金庫派出事務の代
理に横濱正金銀行へ委嘱す。ト付累々同行と締結
せし金銀貨幣交換事務代理約條の修正を加へ更に同

行ニ委嘱セ給

○四月廿九日 女工採用及給與規則ニ定む

○六月四日 代理店公債事務取扱手数料ニ改正す

○七月一日 本日より商法残部實施せられたるに依り本行の如き法人の代務人ル商業登記簿に登記するの必要ありし付台北出張所長と降しの外各支店出張所長と以て其支店出張所に於て本行の代務人と定先其旨登記を經たり

○七月十一日 補助貸交換取扱手續ニ定む

○八月廿四日 國庫金取扱費科目表ニ改正することと決
定す

○九月五日 累年大蔵大臣の命達に基き横濱正金銀行の
委嘱せし横濱神戸両地のに於て金銀貨幣交換事務並

中央金庫派出事務の代理は該事務完結し、こゝに付本日限り之を解除し、

○九月十九日 經費豫算調理細則を定む

○十月卅一日 福岡縣門司に於ける本行西部支店新築工

事竣工し、こゝを以て同所の西部支店に移し、本日より一切の業務を取扱ひ、我へて十一月一日落成式を舉行し、大蔵大臣の認可を得て、今日臨時休業なり

○十一月一日 大蔵省参興官栗原真一氏本行監理官を任命せられし事

○十一月七日 各廳派出金銭取扱順序を改正す

○十一月八日 日本銀行内規を發布す

○十一月十一日 大蔵省参興官平山成信氏本行監理官を任命せられし事

○十一月十四日 及十八日の両日大阪支店に 天皇陛下
同地へ行幸ありせり。たゞに付大蔵大臣の認可を得
て臨時休業せり。

○十一月十五日 従来金庫局に於ける交換濟政府紙幣及
銀行紙幣廢毀還納の関する事務の一部取扱を悉皆併
行局に移す。

○十一月三十日 本行西部支店新築工事落成に付本日限
其臨時建華原代廢止せり。

○十二月一日 本店附属建築工事竣工に付以下本日
より東京交換所と同所に移轉せしめらる。

○十二月七日 行員身元保証金規定及同取扱規則を改正
す。

○十二月廿九日 大阪支店に特許証券原を置く。

第二章

財政

第一節 國庫金

本年中國庫金收支高及年末殘高を見れば、收納高拾七億八千八百拾九萬餘圓、仕拂高拾八億貳千百五萬餘圓にして、參千貳百八拾五萬餘圓の拂出超過となり、年末殘高參千百九萬餘圓を存せり之を中央金庫、大坂本金庫及各地本金庫に厩別すれを左に如し

	昨年ト繰越高	收納高	合計	仕拂高	年末殘高
中央金庫	二、八三〇、四七八、一五	一、二七〇、四五一、一〇七	一、八八、二八、九七〇	九、四二二、二七六、八〇四、八五五	九、四二四、一三五、三〇三
大坂本金庫	四四、一三六、九〇五、五九一	二、七〇、二〇三、五五四	二、五、一五七、一〇九	二四、一六七、〇五三、二二五	九、四七九、〇四五、九三〇
各地本金庫	八、〇二七、七三〇、一八五	二、一〇、七二二、四三九、二六	三、八、七五八、七四一、一一	三、八、五七六、六五八、九〇五	一、二、一八八、二一五、二〇六
合計	六、三九四、二八三、五九一	一、三八、五七、二七〇、五九七	一、八、五、一四四、八五四、二〇八	一、八、三、〇五三、五五七	七、四九、三、〇九一、二六六、四三九

又右收支高を月別とし、且各月平均殘高表記すれを左に如し

51

		本年		前年		比上年		増減					
		収納	高	支払	高	平均	残高	収納	高	支払	高	平均	残高
一	月	三九、七五、四九	〇五七	二四、五〇、九六	八〇二	一三、九四、六三	二〇一	五九、二〇、九〇	七二六	九、二〇、九〇	五七四	七、三三、〇三	七人
二	月	五九、九〇、七九	七四九	五〇、三八、〇五	〇五五	三、五三、五五	五九三	三、〇三、五五	一三七	六、一七、五五	四四四	一、五五、二二	四九六
三	月	五三、三三、九六	二一四	四、五五、〇七	七人	一、五〇、九一	七人	一、五〇、九一	四二二	三、五三、五五	四五一	一、五〇、九一	六、一四、七五
四	月	五二、二七、〇三	四一三	一、五五、二四	八九七	七〇一	一、五五、二四	八九七	四七〇	三、五三、五五	四四一	一、五〇、九一	八八六
五	月	三三、七四、九三	四九〇	三、五三、五五	五五五	一、五〇、九一	七人	一、五〇、九一	四二二	三、五三、五五	四四一	一、五〇、九一	八八六
六	月	五九、八七、七三	一九〇	五、五五、〇七	五五五	一、五〇、九一	七人	一、五〇、九一	四二二	三、五三、五五	四四一	一、五〇、九一	八八六
七	月	三三、五八、四三	二七五	一、五〇、九一	五五五	一、五〇、九一	七人	一、五〇、九一	四二二	三、五三、五五	四四一	一、五〇、九一	八八六
八	月	二七、六四、五三	五五八	二、五五、〇七	五五五	一、五〇、九一	七人	一、五〇、九一	四二二	三、五三、五五	四四一	一、五〇、九一	八八六
九	月	二八、五五、八二	八一八	二、五五、〇七	五五五	一、五〇、九一	七人	一、五〇、九一	四二二	三、五三、五五	四四一	一、五〇、九一	八八六
十	月	二四、五五、四三	六三七	二、五五、〇七	五五五	一、五〇、九一	七人	一、五〇、九一	四二二	三、五三、五五	四四一	一、五〇、九一	八八六
十一	月	二八、五五、八二	三七四	二、五五、〇七	五五五	一、五〇、九一	七人	一、五〇、九一	四二二	三、五三、五五	四四一	一、五〇、九一	八八六

十二月

合計及平均

五、四、五一	八〇六	二、五、七、九、五、一	一、五、一	八、五、九、一、九、四	七、九、〇	四、〇、七、七、二、〇、五	一、八、〇	三、三、八、二、六、九、四、二、七、二、四	六、四、八、八、三、五、四
二、八、八、八、七、七、〇	五、九、七	二、八、二、五、五、五、七	七、四、六	三、八、三、三、七	九、八、〇	五、六、九、〇、五、九、二、七	一、五、七、五、〇、〇、〇、三、一	八、三、七、一、〇、三、二、五、五	

又本年中金庫廢置變更小係るも、之を舉ぐれば一月二十二日大藏省告示第五號を以て福岡本金庫所属前原支金庫の出納尾域中早良郡を福岡本金庫の出納尾域に編入し四月十六日告示第三十二號を以て津本金庫を廢して津支金庫として従前其所屬する支金庫を併せて名古屋本金庫所属の支金庫に改え八月十五日告示第六十號を以て神戸本金庫所属西宮支金庫出納尾域武庫郡の内須戸山田の西村を削り神戸本金庫出納尾域中に加ふることに變更した。又本年中本支金庫の位置移轉せしものは本金庫三箇所支金庫十六箇所にして年末現在金庫數を本金庫四十四箇所支金庫四百一十一箇所とす。

又本年中本支金庫事務へ變更解約を爲したるものは左の如

一月一日より従前第八拾五國立銀行に委託せし中央金庫
所屬支金庫へ内態谷本庄、大宮、松山、川越、五支金庫へ事務
代理を解き更に株式會社第八十五銀行に、第五十五國立
銀行に委託せし神戸本金庫所屬支金庫へ内村岡、豊岡、牧
田三支金庫へ事務代理を解き更に株式會社五十五銀行
に第六十九國立銀行に委託せし新潟本金庫所屬支金庫
へ内三條、長岡、六日町、小千谷、十日町五支金庫へ事務代理
を解き更に株式會社六十九銀行に、第百三十九國立銀行
に委託せし同上所屬支金庫へ内安塚、糸鼻川、高田、柏崎四
支金庫へ事務代理を解き更に株式會社百三十九銀行に
委託す

一月十六日より從前第三十二國立銀行に委託せし大坂本
金庫所屬支金庫の内富田林八尾堺岸和田四支金庫の事
務代理を解き更に株式會社浪速銀行に委託す

三月一日より從前第七十七國立銀行に委託せし仙臺盛岡
兩本金庫及所屬支金庫の事務代理を解き更に株式會社
七十七銀行に委託す

三月三十一日限り各地本金庫事務代理約條満期より神戸
佐賀兩^本金庫及京都本金庫所屬八幡外二支金庫の代理約
條を除く此外は更に四月一日より向一ヶ年の期限を以
て引續き各銀行に委託す

四月一日より從前合名會社三井銀行神戸支店に委託せし
神戸本金庫及所屬支金庫事務代理を解き更に住友銀行
神戸支店小茅六十四國立銀行に委託せし京都本金庫所

屬八幡八日市水口三支金庫ハ事務代理を解き更に株式
會社近江商業銀行八日市支店ハ第百六國立銀行に委託
せし佐賀本金庫及所屬支金庫ハ事務代理を解き更に株
式會社佐賀百六銀行に委託す

六月一日より新に名古屋本金庫所屬となりたる津松坂山
田尾鷲木本鳥羽ハ大支金庫事務代理を株式會社百五銀
行ハ全上所屬四日市桑名大泉原三支金庫ハ事務代理を
株式會社百二十二銀行ハ龜山支金庫を株式會社龜山銀
行ハ白子支金庫を株式會社河曲銀行に上野名張二支金
庫を株式會社第八十三上野銀行に委託す

六月十一日より神戸本金庫所屬明名社村二支金庫事務代
理を株式會社五十六銀行に追約委託す

七月一日より神戸本金庫所屬支金庫ハ内姫路赤穂山崎龍

野四支金庫の事務代理を株式會社三十八銀行小松江本
金庫所屬支金庫の内津和野濱田益田三支金庫の事務代
理を株式會社五十三銀行小京都本金庫所屬支金庫の内
福知山綾部舞鶴峰山宮津五支金庫の事務代理を株式會
社百三十銀行に追約委嘱す

七月一日より從前株式會社茅五銀行鹿兒島支店に委託せ
し鹿兒島本金庫及所屬支金庫の事務代理を解き更に株
式會社浪速銀行鹿兒島支店に委嘱す

九月十九日より秋田本金庫所屬支金庫の内鶴岡酒田二支
金庫の事務代理を株式會社六十七銀行に追約委嘱す

十月十日より高松本金庫及所屬支金庫の事務代理を株式
會社高松百十四銀行に追約委嘱す

十月十九日より中央金庫所屬支金庫の内八王子青梅二支

金庫の事務代理を株式會社八王子第七十八銀行に追約
委嘱す

十一月廿五日より山口本金庫及所屬支金庫に事務代理を
株式會社百十銀行に追約委嘱す

又本年中國庫事務に就て記す、き日四月二日以降旧壹圓
銀貨引揚方を結了せし、従来國庫金取扱受負費として毎
年度四拾餘萬圓宛本行に補給せしを廃止し本年度よりハ
台灣本支金庫取扱に關する費用の一部(本年度分請員額四万參
百貳拾圓)をハミ支給せしむる、とありたるを尚ほ此外に補
助貸の普及を留るゝ為七月以降本支金庫に交換基金を備
へ置き要手數料を以て一般需要者に交換を許す、途を啓
きたるも金庫に於ては租稅其他の公納に於て貨幣法第七條
の規定と異あり補助貸を無制限に受領するべきを以て明示せ

うれたろ等ろ

第二節 公債證書

本年中公債證書發行還収此景況を考ふに發行總額千七百拾萬參千參百五拾圓價還額八百七拾七萬八千百參圓にして其詳細は左に如し

發行

鐵道公債證書額面貳百九拾萬七千參百五拾圓

内譯

貳百八拾萬七千參百五拾圓

一月

拾萬圓

三月

北海道鐵道公債額面百萬圓

内譯

百萬圓

三月

軍事公債證書額面百貳拾九萬六千圓

內譯

四萬五千圓

一月

百貳拾萬圓

三月

參千圓

三月

四萬八千圓

十月

事業公債證書額面千一百九拾萬圓

內譯

八百萬圓

一月

參百九拾萬圓

三月

合計千七百拾萬參千參百五拾圓

償還

五分金祿公債證書額面參百參拾五萬九百五拾圓

內譯

五萬五千五百五拾圓

三月中買入銷却

此買入價格
九拾圓

五萬圓

全上

此買入價格
八拾七圓五拾錢

參萬圓

全上

此買入價格
八拾七圓五拾錢

拾壹萬五千圓

五月中買入銷却

此買入價格
八拾九圓五拾錢

貳萬圓

全上

此買入價格
八拾八圓五拾錢

參百八萬四百圓

十二月中買入銷却

此買入價格
九拾壹圓

五分利付整理公債證書額面五百拾參萬八千貳百圓

內譯

七拾萬七千圓

二月中買入銷却

此買入價格
九拾四圓

拾壹萬四千八百五拾圓

四月中買入銷却

此買入價格
九拾圓

參百萬圓

全上

此買入價格
九拾貳圓五拾錢

拾六萬六千參百五拾圓

五月中買入銷却

此買入價格
九拾壹圓五拾錢

拾萬貳千四百圓

全上

此買入價格
八拾九圓五拾錢

拾八萬圓

五月中買入銷却

此買入價格
九拾圓拾錢

六拾六萬七千六百圓

十月中買入銷却

此買入價格
九拾圓拾錢

前拾萬圓

全上

此買入價格
九拾四圓

海軍公債證書額面六萬六千圓

內譯

貳千圓

四月中買入銷却

此買入價格
八拾九圓拾錢

參萬九千圓

五月中買入銷却

此買入價格
八拾八圓拾錢

貳萬五千圓

全上

此買入價格
八拾七圓拾錢

軍事公債證書額面參千五百圓

本年中消滅之係八分

舊公債證書金貳拾壹萬九千四百五拾圓

本年中償却之係八分

合計八百七拾七萬八千四百圓

右發行償還の結果より本年末に現發行高を參億九千百

貳拾八萬餘圓にして前年末より増加するに八百參拾貳萬

餘圓とふる之を各種類に區別して前年に對比せるを左の如し

	本年末日	前年末日	比較増減
五分金禄金債	二、六一五八、四二〇	二九、五〇九、三七〇	三、三九〇、九五〇
舊金債	五、〇四七、四五四	五、二六六、九〇八	二一九、四五四
整理金債	一、六九四、四二六	一、七四四、五五四	五〇、一三二
海軍金債	九、二二六、六〇〇	九、二八八、六〇〇	六二、〇〇〇
軍事金債	一、二四六、二〇〇	一、二三三、三三三	一、二六六、八六七
政府券利金債	五、三八七、三五〇	四、一〇〇、〇〇〇	一、五八七、三五〇
合計	三九、二八七、八五四	三八、九五四、五三八	三、三三三、二六六

又右年末現在高を記名無記名ノ二種に分ち各府縣に表記すれば左の如し

東京 記名 無記名 合計

東京	東京	四六、九〇、四六。	一五、三〇、七五。	一九七、九九、二一。
京都	京都	文、〇九九、五五。	一五、六四、三〇。	二、一、三八、四五。
大阪	大阪	九六、六九、九四。	一三、四三八、一。	二九、一〇八、〇四。
神奈川	神奈川	一三、三六、三五。	三九、二一、五。	五、二五七、四。
兵庫	兵庫	一、五一四、文。	四三、七二、五。	一八、九八、八。
長崎	長崎	六、四〇、二五。	一、一七、三五。	一七、八一、三七。
新潟	新潟	一三四九、七七。	二〇、二三、八。	三三七、三、二五。
群馬	群馬	文、二四、二。	九文、二五、五。	一、五八、七。
埼玉	埼玉	一七〇、三九九。	七文、一四、五。	二、四、四、四。
千葉	千葉	一〇、二六、二。	八三、一、一。	一、八五、七。
茨城	茨城	文、五七、三五。	一〇、一七、一。	一、七、四、四。
栃木	栃木	七二九、二二。	四〇、二、四。	一、一三、一、七。
奈良	奈良	五八九、一七。	一、二六、五。	一、八五、五、六。

石川	福井	秋田	山形	青森	岩手	宮城	福島	長野	岐阜	山梨	静岡	愛知
八二六、九〇	一、三九四、七六〇	八三三、七〇〇	七二四、〇二五	四三六、五二五	四〇二、三二五	四三一、七〇〇	四六九、二二五	一、五五〇、四〇〇	一、五五九、一〇五	四四七、〇二五	一、二六、九五〇	五、五四〇、〇五〇
一、七四八、〇〇〇	一、六八八、一五〇	四二八、八五〇	一、六二五、九〇〇	三、五四〇、〇〇〇	四三六、三〇〇	七三六、四五〇	九三八、七〇〇	一、五八六、三〇〇	二、〇八七、五〇〇	五五三、九〇〇	一、七二一、七〇〇	九、〇二一、一五〇
二、五七四、九〇〇	三、〇八六、九〇〇	一、二九五、五五〇	一、三五四、九二五	七、八九五、五二五	一、八三四、二二五	一、一五八、一五〇	一、四〇八、三二五	三、一一四、〇〇〇	三、五四六、六〇五	一、七〇〇、九七五	一、九八三、六五〇	一、四、五五七、二〇〇

富山	八九三、八五〇	一、三〇二、〇五〇	二、一九八、九七〇
島根	一、七七七、〇〇〇	一、二七四、〇五〇	一、九五四、〇五〇
鳥取	六五三、三二五	三、一六、五七〇	九六九、八二五
岡山	八〇六、五七〇	二、一五二、六七〇	二、九六九、二七〇
廣島	一、〇七七、一三〇	一、二四六、九五〇	二、二五四、〇七〇
山口	二、〇五九、一五〇	四、〇五八、三三〇	六、一一〇、四五〇
和歌山	五九二、三三〇	六、一四二、五五〇	一、三〇六、六二〇
徳島	一、一一二、三七五	一、〇〇二、二二〇	二、一一四、五七五
香川	九三六、二七〇	一、〇二二、二七〇	一、九五七、八七〇
高知	一、一八八、〇〇〇	五七八、〇〇〇	一、七五九、〇〇〇
愛媛	九五八、〇〇〇	六九六、三三〇	一、五四六、三三〇
福岡	一、〇一六、一五〇	二、五一五、九七〇	三、五三二、〇五〇
大分	六八七、五二五	七四二、九七〇	一、五三三、四二五

佐賀	六三二、四六五	一、二四八、二九〇	一、八七二、六九五
熊本	六二四、四九五	一、四八六、七九〇	二、一〇七、一九五
宮崎	四、三、七七五	五、一七、二九〇	九、二〇、九七五
鹿児島	四四三、一五〇	九四、一三、九〇	一、三八四、四七〇
沖縄	三、四、一五〇	一、四三、三九〇	一、五七、五九〇
北海道	五八四、三九〇	一、二二四、九五〇	一、八一九、二五〇
臺北	一、九五〇	二、二〇、四九〇	二、二二、三五〇
英國		五七、二五三、一七〇	五七、二五三、一七〇
總計	一、〇、一一五、九四五	二、九九、九五五、九七〇	四、〇、〇七二、八四五

備考

本表總計の前表と符合する理由を下に如し
 一、旧公債は於て
 本表は觀面と採り前表は消却高を採りしと一、金庫公債は於て
 前表を大藏省告示に隨ひ消却高を控除したる高に據りたるも本
 表は各店量販の據りたるを以て其取扱上未だ消却高をありきも人
 在高として算出したるものありと一本表は、要記名欄を別に正
 算出方より小由り本年内は於て押渡したる公債利子(前年分を
 も含えり)と何れ地方にも屬するも此を合する(前三者を増加の理由として

後の一は減少の理由よりとす

又前表中記名公債證書につき東京地方間轉出入の景況を
見ると轉入が百拾五萬餘圓轉出八拾萬餘圓として前百
參拾四萬餘圓の轉入超過とふる而して其各月入出高は左
の如し

月	轉入		轉出		入出超過
	轉入	轉出	轉入	轉出	
一月	一二四、五五〇	二一九、八八〇	九一、二五〇		
二月	一五、四〇〇	一〇四、五五〇	八九、一五〇		
三月	三六、二五〇	一六二、一五〇	一二五、八五〇		
四月	二〇、一二五	一八、三七五	一、七五〇		
五月	六、四五〇	二八、四〇〇	二一、九五〇		
六月	八九、二五〇	一〇九、八〇〇	七九、四〇〇		
七月	六四九、〇五〇	一三、七五〇	五二、三五〇		

八月	一〇九七、六五〇	二、三、三〇〇	一、〇、七、四、三、五〇
九月	八二八、七〇〇	二、一、一〇〇	八〇七、六〇〇
十月	二〇三、一五〇	六、〇、五〇	一九八、一〇〇
十一月	五、一、六〇〇	六、四〇〇	四、五、二〇〇
十二月	三九、五五〇	八八、〇〇〇	四八、四五〇
合計	三、一、一、一、五七五	八二〇、五二五	二、三、四、一、一五〇

又右の結果記名公債と在東京及在地方に別して前年と比較すれば左の如し

	本年末日	前年末日	比較増減
在東京	四六、七二〇、四六〇	四五、二〇〇、一〇〇	一、五二〇、四六〇
在地方	四三、九八九、八六三	五六、九六三、〇八五	一二、九七三、二二一

又其記名公債中東京と在地方と所有者變遷の状況を表記すれば左の如し

本年				前年ト比較増減			
官有	失有	氏有	合計	官有	失有	氏有	合計
一月	八五、二八〇	二四、六八〇、一三五	一九、二八、七五五	四四、七五七、一五〇	七、四七、五五〇	六、四二四、〇八〇	二、九八、七、二四〇
二月	八五、二八〇	二五、八二五、一五五	一八、〇一八、八〇五	四四、七五七、一五〇	七、四七、五五〇	六、三三〇、八九〇	一、七九、〇、五五〇
三月	八五、二八〇	二五、八二五、一五五	一七、八八八、五五五	四四、三二、九一〇	一七、五、二五〇	六、二四六、八五〇	一、九八、四、五五〇
四月	八五、二八〇	二五、八二五、一五五	一七、八八八、五五五	四四、三二、九一〇	一七、五、二五〇	六、二四六、八五〇	一、九八、四、五五〇
五月	八五、二八〇	二五、八二五、一五五	一七、八八八、五五五	四四、三二、九一〇	一七、五、二五〇	六、二四六、八五〇	一、九八、四、五五〇
六月	八五、二八〇	二五、八二五、一五五	一七、八八八、五五五	四四、三二、九一〇	一七、五、二五〇	六、二四六、八五〇	一、九八、四、五五〇
七月	八五、二八〇	二五、八二五、一五五	一七、八八八、五五五	四四、三二、九一〇	一七、五、二五〇	六、二四六、八五〇	一、九八、四、五五〇
八月	八五、二八〇	二五、八二五、一五五	一七、八八八、五五五	四四、三二、九一〇	一七、五、二五〇	六、二四六、八五〇	一、九八、四、五五〇
九月	八五、二八〇	二五、八二五、一五五	一七、八八八、五五五	四四、三二、九一〇	一七、五、二五〇	六、二四六、八五〇	一、九八、四、五五〇
十月	八五、二八〇	二五、八二五、一五五	一七、八八八、五五五	四四、三二、九一〇	一七、五、二五〇	六、二四六、八五〇	一、九八、四、五五〇
十一月	八五、二八〇	二五、八二五、一五五	一七、八八八、五五五	四四、三二、九一〇	一七、五、二五〇	六、二四六、八五〇	一、九八、四、五五〇
十二月	八五、二八〇	二五、八二五、一五五	一七、八八八、五五五	四四、三二、九一〇	一七、五、二五〇	六、二四六、八五〇	一、九八、四、五五〇

又本年中本行に於て取扱たる公債事務に要領を併記せん
 小公債抽籤及満期償却并に利子拂渡に爲る受拂を列した
 る國債元利預金勘定は左に如し

	前年繰越高	受入高	支払高	年末残高
本店	九三七、三六一 八四三	三、四一九二、五四六 九六五	三、四、〇七七、四一八 六五八	五、四、四九〇、一五〇
大坂支店	二、三八七、四 三四九	一、〇、六七、四一四 七一三	一、〇、三九、〇四七 五七〇	五、二、二四一、五五二
西部支店	五、六八 五五八	七、文、四一二 四〇六	五、文、〇一五 一四二	九、五、五 九二〇
北海道支店	二、文、四七 七八九	文、四、二一七 七九五	文、三、一七八 九六二	三、文、八、文、二 文、二
名古屋支店	四、文、七、七 三〇八	八、一、八、〇一 三九三	七、九、八、一、五 四九二	文、文、文、二、三 七七二
札幌出張所	四、二、五八 二四五	一、七、四七一 〇九一	一、九、八、文、七 七五五	一、八、文、一、五 七七一
京都出張所	二、三、三、五 一五一	八、四、五、文、一 四九八	八、三、五、七、八 四九八	三、〇、一、五、五 二二一
臺北出張所	七、五、九 三二一	一、二、三、九、〇 九八六	一、一、九、五、三 五二〇	一、一、九、六、七 七九七
小樽出張所	四、四、三、四 二二	一、五、七、一、〇 六八一	一、五、文、九、一 八八八	四、文、二、二 一一五

代理店	二二七、〇七二	九五五	八、五七、八九〇	七九四	八、七五、七三九	四七七	二〇七、二二五	二七二	
合計	三三〇七、〇七九	〇三九	四五、六八、六八一	八一五	四六、七〇、八五一	七五九	二二八、九〇九	〇九二	
即ち受入高	四千五百六拾八萬餘圓	仕拂高	四千六百七拾萬餘圓	とあり之を前年	と比すに	受入高に	貳千貳百六拾九萬餘圓	仕拂高に	貳千参萬餘圓を減少

14

第三節 貨幣

本年中貨幣消長の景況を見んか為各月末日に於ける硬貨
及紙幣の總額を擧げて前年に比較すれば左の如し

				本年		前年ト比較増減	
				硬貨	紙幣	硬貨	紙幣
				合計	合計	合計	合計
一月末日	五五、五五、九七二	三、五七	二八、七五、四四五	七、九四	五三、三三、八四、二八	一、〇七	五二、五七、八八、九
二月末日	五九、四七、二八	五、五七	二五、〇〇、八八八	二、五〇	五七、二六、五、二四	八、〇七	五二、八七、九、四五
三月末日	五三、四二、四九〇	六、〇七	二五、八八、三六	二、九〇	五三、五三、八、五九	八、五七	五二、八八、九、三〇
四月末日	二四、一七、四四七	四、〇七	二八、四四、七四四	二、五〇	三三、五三、七、六一	六、五七	二九、三八、二、〇
五月末日	二四、四四、四三三	五、五七	二九、四四、七四四	七、五〇	三三、八七、六、五五	一、〇七	二九、四四、七、四四
六月末日	二七、三八、六六五	六、五七	二八、四四、七四四	一、二五	三三、七、八、二九七	八、二	二九、九二、〇、九七
七月末日	二五、八五、九七二	八、一七	二八、四四、七四四	二、五〇	三三、二五、八、〇五	二、七	二九、五九、九、七五
八月末日	二五、八五、九七二	八、五七	二八、四四、七四四	二、九〇	三三、五九、九、二八	二、七	二九、八二、〇、〇四
九月末日	二五、八五、九七二	五、一七	二八、四四、七四四	二、五〇	三三、八六、五、三二	七、五七	二九、五四、一、二〇

41

十月末日	四、〇三、七、八、三、四、二	八、四、〇、六、九、五、〇	三、九、九、三、二、八	九、九、二	一、五、二、四、五、四、五、三	四、一、五	二、三、一、二、三、三	一、〇、〇、〇、〇、〇、〇	三、九、七、五、六、五、五、五	四、一、五
十一月末日	四、九、三、八、〇、七、二	八、一、七、〇、四、四、〇	三、七、一、三、五、九、一、七、二	一、七、二	一、五、四、九、八、二、八	三、三、五	二、九、九、八、〇、三、〇	八、〇、〇	四、〇、〇、〇、〇、〇、〇	四、一、五
十二月末日	四、七、七、六、五、七、二	八、〇、七、七、五、四、七	三、五、七、五、三、三、〇、七、二	一、七、二	一、五、五、五、五、五、五、五	三、三、五	三、二、八、八、七、七	四、〇、〇	四、〇、〇、〇、〇、〇、〇	四、一、五
平均	三、七、七、六、五、七、二	八、〇、七、七、五、四、七	三、五、七、五、三、三、〇、七、二	一、七、二	一、五、五、五、五、五、五、五	三、三、五	三、二、八、八、七、七	四、〇、〇	四、〇、〇、〇、〇、〇、〇	四、一、五

前表を見るに硬貨の最高額ありしは二月よりして年首三ヶ月間を共に高額を示し四月に至り壹圓銀貨通用禁止に結果俄然減額を顕けし爾後復た追加して十二月に至り紙幣の最高額ありしは一月にして是亦年首三ヶ月間を高額を顕けし其後を一高一低十二月に至り稍復た増加せり而して前年に對する比較を見るに硬貨は年末三ヶ月減少し紙幣は年首三ヶ月増加す又右硬貨及紙幣を各種額に別列せしを左の如し

硬貨

[illegible]

次に紙幣に就て之を見ろ小免換券は一月より於て年中の最高額を示し爾後五月迄は大勢上漸減し五月より十二月に至るまで更々増減し其餘の三種紙幣は何れも其性値として漸減に就き政府紙幣は五百五拾九萬餘圓より四百拾萬餘圓に銀行紙幣は四百七拾七萬餘圓より百八拾六萬餘圓小紙幣は百七拾七萬餘圓より百参拾萬餘圓とあり前表掲ぐる所を貨幣發行總額として右の内免換準備と供せりる正貨を除き實際の流通高を算する前年と比較をれを左の如し

	本年通貨流通高	前年通貨流通高	比較増減
一月末日	三〇、三二九、六七四 一〇七	二七九、一三八、八三九 七〇二	三、一七二、八三四 四〇五
二月末日	二九八、八一五、三二六 八〇七	二七、三九五、九二三 〇〇二	二七、四九九、四〇三 八〇五
三月末日	三〇一、八三二、六九三 八五七	二九八、四四一、八四〇 八〇七	三、三九〇、八五三 〇五〇

四月末日	二五、三八、四三、八五、七	二六、三三、四三、一八、七	六、五四、一、二三	一、五、四
五月末日	二五、二〇、八五、四一、七	二七、四、五、二、九、六、八、〇、七	二、二、五一、七、〇、八、三	七、〇、〇
六月末日	二五、七、六、二、九、七、七、二、〇、七	二八、〇、三、八、八、七、七、二、九、〇、七	二、二、七、五、八、九、九、六	七、〇、〇
七月末日	二六、六、四、九、三、七、七、七、七、七	二八、六、六、二、九、八、五、二、二、七	二、〇、一、三、五、一、二、〇、六	一、四、〇
八月末日	二八、四、六、六、八、五、一、一、七	二八、八、〇、七、七、七、八、五、三、〇、七	三、四、〇、三、九、一、〇	一、九、〇
九月末日	二七、四、五、一、九、五、七、七、七	二八、九、二、二、四、三、四、三、三、七	一、〇、七、七、七、三、八、五	五、四、〇
十月末日	二六、〇、六、八、三、三、五、九、二	二九、六、七、九、〇、三、七、七、七、七	四、一、〇、七、〇、八	四、一、五
十一月末日	二六、一、五、一、九、八、二、六、九、二	三〇、八、二、〇、七、八、〇、四、三、七	四、六、八、七、九、七、七	六、一、五
十二月末日	二八、三、二、四、〇、三、二、〇、七、二	三二、五、三、三、七、七、二、七、七	四、二、一、二、三、五、三、八	一、三、五
平均	二七、六、四、四、四、二、五、一、七、一	三二、八、七、〇、七、七、五、〇、三、一	一、〇、六、六、三、三、四、九	八、六、〇

即ち其最少額を示しハ五月此節億五千貳百萬餘圓
 其最高額は一月ハ参億千参拾壹萬餘圓
 全年平均貳
 億七千六百四萬餘圓とある之を前年に比較すれば年首三

日本銀行

278

第三章

金融

第一節 東京

本年中東京市内金融の景況を逐月摘記すれば左の如し
 一月 上旬の金融は歳首より、て意外に小康なりしを金
 融渋滞の大勢は依然として其歩調を更えに殊に諸會社
 の拂込及租税の納入舊曆節季の諸勘定諸會社銀行の利
 益配當等に要する金貨の増加せしは中旬より下旬に
 入るに随ひ漸次資金の需要を増加し三菱銀行帝國商業
 銀行の如きは相踵て利子の引上を為さる

二月 金融界の大勢未だ遽かに圓滑を得るうりさる小田
 組及諸會社の拂込に要する金額も亦少かりしを以て
 金融は依然繁化を感ずる尤も例年の如く既に金融緩
 慢の時季に差向なしを以て中旬より月末に至るに随ひ

金融を一時引緩みを告ぐる

三月初旬より中旬に至る此間は前月に引續き金融暫く引緩みの状態に在りしも外國貿易は依然逆境に在りて正貨の流出夥しく物價は却て騰貴の傾向を顯し又一方には諸會社の拂込并租税納入及株式の受渡に要する資金巨額に達せしむる爲金融は舊に復して再び逼迫を告げたり

四月 輸入超過正貨流出及物價騰貴の趨勢は此月に入ると益甚しく加ふるも諸會社拂込并租税納入に要する資金も亦少からざるに際し株式取引所に於ては炭礦株受渡の係る不始末事件有りしを以て各銀行とも勉て貸出を渋りしか爲金融は漸く前月來緊縮の状況を持續せり

五月 月初は各銀行とも多少資金の回収ありて稍小康なりし中旬以後は製茶製糸及製物仕入等に属する資金の需要益多きを加へ加ふるに各種租税納入及諸會社拂込に要する金負巨額に達せしうは漸次繁忙を來たし殊に月末には株式受渡に要する融通の爲元頗る緊縮を告ぐるに至り

六月 前數月と異なり納税及諸會社拂込に要する資金は僅少なりし上に政府の公債買上漸く多く諸公債の利子及諸會社の配當亦少かり殊に諸企業縮少の結果漸く顕けられ来るを以て上旬より中旬に掛けては逼迫からうも漸く小康の傾向を顯けし始なり尤も下旬に入リては半季決算の切迫するに共に株式の受渡に要するものも甚だ多く随て資金の需要は一時大に繁忙を感ず

七月 公債利子の拂渡皆要ふるゝ各種の租税諸會社の拂込巨額に上りしとて金融は本々切迫するも新内閣が公債買入を持續せしめて諸会社の配當巨額なりしと商業日々益不振に陥りし等の結果として資金の需要少く前月末の大勢を承きて益小康の状況に向へり

八月 商工業萎靡不振の結果大に資金の需要を減殺せしめ政府の公債買入巨額なりしを以て金融は益緩和し赴きたり

九月 前月末全一事情の下に於て金融は益緩和し傾き各銀行とも漸次警戒を解き本行の金利引下説より行けるに至れり

十月 上旬に於ては依然緩和の大勢を持續し殊に外國貿易

易は漸く其趨勢を一變し經濟界の狀態亦漸く靜穩に歸
しゐるゝ為本行始各銀行共各貸付利子を引下け
而るに中旬以後は政府に於て公債買入を停止したるが
為金融一時稍緊縮を告げし

十一月 商工業の景況未だ遽かに回復せざるを外國貿易
の益順境に向ひ等に見ゆ前月初旬の大勢を繼續し金
融は益緩和を告ぎ銀行よりては利子の引下をさへ決
行せるものあり

十二月 例年の如く中旬以後は漸く資金の需要増加し月
末に至りて一時繁忙を告げし大勢に於ては引續き緩
和の傾向を示し本行の如きを再び利子の引下を決定し
たり

以上記す所に據るゝ之を察するに上半季は金融非常に

滞滯下半季は非常小緩和をして全然例年と其趣を顛倒せ
 り蓋し前半は前年末の趨勢を承けて金融圓滑なるに
 貿易輸出入は不均衡益甚たしき有りて貸出資金の缺乏せ
 し不因後半を物價下落商工業衰退の結果大に資金耗需
 要を減したるや公債買入及外國貿易順境に向ひ等の事
 有りて漸次市場を潤せし小基くもみありん今東京組合銀
 行の營業成績は據五之を察する小壹千圓以上壹萬圓未滿
 の範圍に於ける貸付金利子歩合は左の如し

	本年				前年と比較			
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	
一月	割分壹毛 一、一四二	割分壹毛 一、〇五一	割分壹毛 一、〇九一	割分壹毛 〇、八〇	割分壹毛 一、〇二	割分壹毛 〇、八七	割分壹毛 一、〇八	
二月	一、一五〇	一、〇五九	一、一〇四	〇、九五	一、二八	一、〇八	一、〇八	
三月	一、一七九	一、〇八八	一、一三五	一、六一	一、五〇	一、六八	一、六八	
四月	一、二〇一	一、一一三	一、一五〇	一、五〇	一、六八	一、五〇	一、五〇	

五月	一、一九四	一、一三	一、一七五	一、二一	一、四九	一、五三
六月	一、二一九	一、二一七	一、一六八	一、六三	一、七二	一、六一
七月	一、二〇八	一、一〇二	一、一三二	一、四二	一、三五	一、〇六
八月	一、二〇一	一、〇九九	一、一四六	一、一七	一、六一	一、四〇
九月	一、一九七	一、一〇二	一、一四六	一、〇二	一、三一	一、三六
十月	一、一七五	一、〇六九	一、一三一	〇八〇	一、二〇	一、〇九
十一月	一、一六八	一、〇五九	一、一三	〇三三	〇三七	〇四五
十二月	一、一三一	一、〇四	一、〇五九	〇六九	〇四〇	〇五八
平均	一、一八〇	一、〇八一	一、一二九	〇九四	一一八	一、〇八

前表を見う最高は六月に於て一割二分一厘九毛、上
 最低は十二月に於て一割四毛、下平均一割一分二厘九
 毛とあり上半季は漸次に昂騰し下半期は漸次小下降し十
 二月よりは著しき低落を示し之を前年に比較すれば年末を

除くの外總て昂騰なり

預金貸出金残高及金銀在高は左の如し

月	本年			前年ト比較増減		
	預金	貸出金	金銀在高	預金	貸出金	金銀在高
一月	五、六、四、四〇五	五、三、〇、八、五三八	六、四、四、一三五	四、九、九、四九八	二、三、七、三、四、四三四	五、八、二、〇、五三
二月	五、九、五、一、四四〇	七、四、三、四九、六一一	七、五、二、二、五四一	八、八、六、一、九六六	二、一、八、四、七、二四〇	八、一、三、八、九〇
三月	五、八、八、八、四、一七八	七、五、九、二、〇、九六〇	五、三、五、五、八四一	八、一、九、一、二、一	二、一、五、四、五、七五四	五、二、三、九、三
四月	五、七、三、五、九、九〇	七、三、九、九、七、二五七	五、九、四、九、五、五四	九、三、四、一、九六三	二、八、七、三、五、八〇一	五、〇、八、五、七、七
五月	五、八、四、四、一、三五四	七、三、二、一、七、五五七	五、八、三、五、四、二一	九、一、七、九、九、一	二、四、八、五、一、九〇	三、五、七、三、五、九、九
六月	五、〇、九、八、六、五、五五	七、五、三、三、四、二九二	七、三、九、四、七、〇八	九、一、九、一、九、八九	三、〇、八、四、五、四〇	七、〇、〇、〇、五、五
七月	六、一、五、九、七、八三三	七、三、四、五、五、七一〇	六、二、四、一、五、九七	一、三、七、九、四、五五	一、七、七、〇、三、七	五、七、九、九、五、五
八月	六、一、四、九、九、〇八七	七、四、五、八、一、八五	六、四、五、五、三、〇三	一、四、三、〇、三、九五	七、一、一、七、三、〇	四、三、五、五、八、九
九月	六、二、〇、四、五、五九〇	七、五、三、四、四、三、八	六、三、三、三、八、〇八	二、三、三、四、二、一六	一、八、九、〇、八、八三	一、三、四、七、二、二、〇
十月	六、一、九、三、四、三、五三	七、八、三、八、〇、一、五二	六、三、一、五、四、一八	四、五、七、〇、八、八五	二、一、五、五、二、二、四	一、一、七、二、三、八

十一月	六三、八三二、五二六	七九、九六六、三六〇	七、三七〇、〇七	六、三四〇、〇九	一、二九八、三一二	一、五九七、五五一
十二月	五四、二〇四、九〇二	八六、二七六、四四九	七、三二八、四七四	七、八七〇、八五四	一〇、五二一、七〇五	二、五八、七三六
平均	六〇、六二七、八五二	七六、二九八、二一〇	六、六二九、二〇八	四、七〇三、三五五	六、三三三、八〇七	八、三、八六三

前表を見ろ小預金は最多を十二月最少は一月小ありて全年平均六千六拾五萬餘圓貸出金は最多を十二月最少は五月にありて全年平均七千六百貳拾九萬餘圓金銀在高は最多は二月小ありて最少は三月、全年平均六千六百六拾貳萬餘圓とあり又前年合計と對する比較を見ろに預金小増して貸出金及金銀在高小減せり

送金荷筋替及割引手形受拂此景況は左の如し

(送金)		本年		前年と比較増減	
	受入	仕掛		受入	仕掛
一月	九、三七五、四一二	二一、七二八、三二〇	三、〇五四、九七一	八、四四二、九六六	
二月	八、六九六、〇二二	一四、七五五、二一一	三、四一九、一五一	三、一七四、四七九	

受入仕年		受入仕		前年々此較増減	
受入仕		受入仕		受入仕	
荷為換		荷為換		荷為換	
三	月	一〇、五五五、〇四八	二二、四七七、五一一	三〇、八八八、五五七	七、二二、四七八
四	月	九、三九八、二四二	二〇、〇五七、四二六	三、一七〇、八五九	四、二一五、五七八
五	月	一〇、〇七九、五八〇	二〇、一二七、〇一六	二、八七〇、九三〇	四、〇九四、二〇四
六	月	九、〇一二、三二六	二二、五八〇、四一〇	九、五五五、五五五	七、五三二、六五四
七	月	九、一一四、七八一	二二、四七〇、七五〇	一、九一八、一八八	三、六八七、三三八
八	月	九、五七五、〇一一	一八、五五三、三七七	八、九八九、六一二	二、三〇七、〇七四
九	月	九、九二二、六〇六	二〇、五五二、七五三	一、二九一、一一六	一、九七〇、五六一
十	月	九、五八八、三五一	二〇、四七八、三三五	七、四三三、七三四	一、五八三、五九九
十一	月	一〇、〇五〇、四七七	一七、七〇七、七四一	六、九九一、一七二	六、一七〇、二二三
十二	月	一、三三七、四五四	二〇、七五八、五四六	四、〇八七、〇〇〇	一、四六一、四一八
合	計	一、二九八、八〇一、三二六	二四、一四七、五、四七〇	一、四九一、九、一二二	三、九、五八五、四〇八

一	月	一、一二、七、四八	五三八、一八三	五二八、七〇一	三三三、九〇一
二	月	一、一二、二、三三	五〇二、八八三	四九五、〇五四	二四八、九五一
三	月	一、一、九、三三八	四、四、二、三七	一、〇、四、九〇	一八五、二一四
四	月	一、一八、八、九〇	三三八、五四九	一、八、五、三、三、〇	二、〇、七、七、七
五	月	一、三、三、三、〇、七三	一八八、三八三	一、八、四、五、一、四	五三三、九七五
六	月	一、五、五、〇、七、七四	一三七、一四六	一、三、三、〇、一、九	三三八、八〇六
七	月	一、〇、八、七、二、〇七	一八五、九八八	六、六、八、九、一、二	四四九、六二四
八	月	一、五、〇、二、四、二、三	一、五、九、五、五、五	五、七、七、五、一、三	二一五、八二五
九	月	一、〇、七、三、〇、二、五	一、九、四、九、一、一	三、九、七、七、二、〇	二二五、四六五
十	月	一、五、四、九、五、五、四	二、一、五、〇、四、一	三、三、九、九、七、九	九三、二四七
十一	月	一、一、三、八、三、三、六	一、二、四、四、七、五	三、四、六、七、九、九	一一一、九六五
十二	月	一、七、一、三、一、七、三	一、九、四、〇、四、一	二、七、五、〇、四、四	八九、九四〇
合	計	二、〇、五、一、三、六、七	三、二、五、三、二、九、五	六、六、一、七、四、二、三	一、九、五、三、五、八、八

割引

受本

仕年

前年ト比較増減

十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
二七八〇、六八六	三一六六、八一五	二八五〇、四二一	二七五七、三七八	二五〇五、七七三	三二〇四、三二七	五〇五、五五二	五三四、六四八	七一、五一三	五七四、三七四	七九四、八一三
五二四、八三〇	五〇一、八〇二	三八八、〇五五	一、五四五、八八八	一、五五三、八八八	五七五、〇四二	五三九、一九九	四七五、一一五	五一九、九二二	八九一、五五一	五〇三、二七八
一、五四九、三九四	二、三二五、〇三六	一、五一六、九〇七	一、七九四、〇三三	一、五一〇、一八一	一、四八五、九九五	二、三二、九八一	二、二一、五一三	一、五〇八、八	一、三三、九八一	二、九三、二二二
二八、二二五	二〇六、四三六	七二、四七〇	一、三〇六、〇二四	一、〇七五、一四九	一、〇〇五、八八一	一、一四一、三三三	一、六九、二五八	一八〇、五八四	五四三、〇〇四	一九三、五五五

十二月	三、五七九、一八二	一、五二五、四四一	二、五四五、八七三	九、九三三、三三六
合計	二、四〇二、一四五五	九、八四四、四七三	一、二七二、五九〇八	一、八一八、五〇九
前諸表を見らる送金受入の最多は十二月最少は二月ありて全年合計壹億千六百八拾萬餘圓とあり仕拂の最多は六月最少は二月にありて合計貳億四千四百六拾七萬餘圓とあり前年と比するに受入總額に千四百六拾七萬餘圓仕拂に参千九百五拾八萬餘圓を増加あり荷為替の受入最多は十月最少は三月とありて全年合計貳千五拾七萬餘圓とあり仕拂の最多は一月最少は十一月とありて合計参百貳拾六萬餘圓とあり前年に比するに受入總額に於て貳百六拾七萬餘圓を増して仕拂は百九拾六萬餘圓を減少あり 割引手形受入の最多は十二月最少は五月にありて全年合				

計貳千四百貳萬餘圓とあり仕拂の最多を八月最少を九月
 小ありて合計九百八拾四萬餘圓とある前年小比すゝ小受
 入總額に千貳百七拾壹萬餘圓仕拂に百八拾壹萬餘圓を増
 加あり

以上三表の受拂金額を合計すれば受入高壹億六千百参拾
 参萬六千四百四拾八圓仕拂高貳億五千四百五拾八萬四千
 貳百貳拾八圓差引九千参百貳拾四萬七千七百八拾圓仕
 拂超過を致せり

又東京交換所於て手形小切手の交換高を奉りて左
 の如し

	本年		前年ト比較増減	
	手形	交換高	手形	交換高
一月	五八、四二七、七五五		二八、一四六、五八	
二月	六〇、二三八、四六〇		二七、七九八、九一五	

三月	七二、一二七、八三九	二九、〇九三、一一九
四月	六一、〇四四、二四四	一四、三九〇、六九三
五月	六五、四三九、五五〇	一九、八二九、五二三
六月	六六、一五二、一七八	一三、八〇八、九四〇
七月	六六、八八一、九四四	一九、五八六、七八三
八月	六八、〇八七、一四三	二二、一四七、四七〇
九月	六五、七五八、五〇一	一八、九八三、四七六
十月	六八、一〇五、三一三	一七、九八三、三五二
十一月	六四、一七五、五七七	一六、五二三、七一三
十二月	七七、八〇二、五七三	一六、九八九、八二三
合計	七九〇、二四八、一八七	二三七、三五七、九七五

前表を見よに最多は十二月最少は一月にありて全年合計
七億九千貳拾四萬餘圓とあり之を前年と比較する小貳億参

日本銀行

大正八年九月

卷之五

第二節 大坂

本年中大坂市内金融の景況を逐月摘記すれを左の如し
 一月 上旬より中旬に亘りては歳首の常として資本の需
 要少かりしの上に紡績糸の賣行稍盛なりしを株式の昂
 騰せしむは一般の人氣に影響に與ふると尠ふより爲
 之に金融は小康の狀を呈せしむるに下旬より舊歲未仕
 切勘定此爲之資金の運轉此れしく稍緊縮の感ありしと
 云ふ

二月 昨冬以来各地方へ對する貸付及爲替戻の回収せら
 るるもの多く加ふるに諸商人は諸品此賣行振るゝから
 るりむより勉めて消極的の策を取りしか爲之に資金
 の需要を減少し殊に株式受渡極免るゝ必額且一堂嶋米
 穀の受渡も皆無ふに至りしより各銀行共充分の餘裕を有し

つ、却月より

三月 商工業を萎靡沈衰して資金に需要少ありしや又
各銀行が前途を豫想して利子を引上ぐるの結果預金の
増加をふりに因り概して小康の状況持續したり尤も
下旬より東京と同一の原因に依り金融少しく緊縮を告
げられども資金の需要東京の如く甚しきに至りけり

四月 前月末緊縮せる金融の趨勢漸く甚しく月初に於て
も資金を毫も回収せりとす又地方為換の返金も至て少
く却て續々手形を振出し来れるの状況あるに株式の低
落甚しかりしか為各銀行をして一時貸出拒絶に近き程
に警戒を為さしむるに至りけり

五月 上旬は前月の反動及九州中國筋より仕入代金の回
送ありし小因り金融稍引緩み姿ありしも中旬以後ハ

東京と同様、再び緊縮を告ぐ殊に下旬に入りては各
紡績會社注文の棉花續々輸入し之に對する資金の需要
増加すしと東京に本店を有する各銀行の本店へ急に応
ずるゝ為え断つて東京に回金したる等に因り一層逼迫
を告ぐる來

六月 商況の沈衰より資金の需要減少せるの折柄勸
業銀行の貸出、政府の公債買入及公債利子の拂渡等あり
しか為え金融漸く引緩みの色を呈するに至れり尤も以
目たる決算期多るかに株式米穀等の受渡も多額ある
しと以て月末を相應に緊縮を告ぐる

七月 月末より各種租税の納入の爲え金融少しく緊縮を
感したるも前月同様の原因にて大体緩和の傾向を示し
たり

八月 政府に於て公債買入の継続せられしと一般商工業の不振ありしを以て因り前月に引續き金融益緩和せらるに至れり

九月 金融の緩和を告ぐると一層甚しく各銀行と手許に遊金を生し交換所日歩の如きは貳銭四五厘に低落し個人貸出は貳銭六七厘まで融通せらるに至れり銀行小よりては尚ほ運轉に難しなるものありしと云ふ但し此頃に至り停滞貨物の賣行續られしを随て仕入資金の需要も起ましうは月末には多少の引締りを見えり十月 各地米穀の出廻漸く盛なりして商況の稍回復しあるに因り前月に引續き引締の状況を示し中旬より下旬に至りては大に繁忙を感ぜり

十一月 商工業不振の結果大勢に於て資金の需要減殺せ

して、て前月の小景氣も永續する能けん殊小米價低落
此甚たしきより賣買双方とも手控の安き在りて資金の
需要未だ大に起る一方を紡績糸漸く盛況を呈せし
か為る資金の回収せらるるなりし小因り金融大に引緩
みを告ぐる

十二月 米穀北出廻至極えて寂寥随て地方向此商品荷動
き少く金融緩和此大勢は依然より但し月末には例年の
例ふるのみふりて株式米穀を始る各取引所の受拂巨額
を上りしを為る暫く繁忙を担ふなり

上記す所小據りて之を觀る金融は四五兩月と於て
著しき逼迫を告る十月と大に繁忙を感したるの外概して
緩和の状況を呈しより尤も其大勢上より之を察するに東
京と同一く上半年は漸次逼迫し傾き下半年は漸次緩和に

勘々金銀例年々其振を顛倒し、之を覚ゆ其原由より、所大
 率收東京と異ふ、殊に日本勧業銀行の貸出紡績綿糸に
 係る貿易の消長の如く最も多く影響を感せし所あり、
 今次改組各銀行営業成績により、壹千圓以上壹萬圓未満は
 貸付金利率子歩合を奉るれを左の如し

	本年			前年と比較		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均
一月	一、一七二	一、〇七〇	一、一二七			
二月	一、一七一	一、〇五一	一、一〇一			
三月	一、一六九	一、〇五五	一、一三六			
四月	一、二一八	一、〇九三	一、一五六			
五月	一、二四三	一、一五三	一、二二一			
六月	一、二三九	一、一三五	一、一八七			
七月	一、二三三	一、一〇四	一、一七六			

八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
一、一八〇	一、一七〇	一、一四〇	一、一三八	一、〇五七	一、一八六
一、〇七一	一、〇一九	一、〇四七	一、〇三三	九八八	一、〇五九
一、〇八一	一、〇九五	一、〇九〇	一、〇八四	一、〇七〇	一、一三三
			〇、五六	一、三八	〇、四一
			〇、七二	〇、六二	〇、〇五
			〇、五三	一、〇五	〇、二一

備考

以下五表より一月より十月に至るまでの前年比較を掲げざるは、大坂組
合銀行集會所の設立前に属するを以てなり

前表を見るに、最高を五月に於て一割二分四厘三毛に上り
最低は十二月に於て九厘八毛に下り平均一割一厘二
厘三毛となり、上半季は概して騰貴の傾向を有し、下半季は
低下の趨勢を示す

預金貸出金残高及金銀在高は左の如し

本年	前年と比較増減
預金	金貸出金
金銀在高	預金
金貸出金	金銀在高

平 均	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
三五、五四五、九九八	三九、五五七、九八七	三六、二二六、四九七	三七、三七一、八三八	三七、三二六、四七一	三五、九二二、九九五	三五、〇五八、九七	三三、二七六、六七三	三三、二四四、三九	三二、九九九、六六	三三、八九四、七八	三四、九八五、三四	三五、〇一六、五二
五五、八九一、四一六	六〇、二五二、七九〇	五五、〇四七、〇三六	五七、九八三、八四八	五五、五九四、〇五五	五五、一二九、九七八	五五、七四五、四八七	五五、二二九、三六	五五、一五九、八二二	五五、七四八、一七九	五五、八九六、二二二	五五、五〇八、七二七	五五、五四二、七四
四〇、二六、五八二	四一、三三、三七八	三九、九七、〇七五	三九、五五、一一四	四〇、八八、八八一	三九、二五、八一六	四〇、二〇、九〇九	三九、二二、三六〇	三八、二四、一五八	三八、二八、二四〇	四〇、四三、〇三五	四〇、五三、五六一	四〇、五五、二四五
一〇、七二二、一七九	二七、四一、〇〇三	五、九七四、五四五										
一一、七〇七、八八〇	二三、二六五、〇四九	一九、五七、〇										
二、八一六、〇一四	四、四一七、三七三	二、二〇六、六五五										

前表を見ろ小預金の最多は十二月最少は四月にありて全年平均は千五百六拾四萬餘圓とあり貸出金の最多は十二月最少は六月にありて平均は千五百八拾九萬餘圓とあり金銀在高北最多は一月最少は八月にありて平均四百貳萬餘圓とあり

送金荷為替及割引手形受拂の景況は左の如し

送金

	本年		前年	
	受入	仕拂	受入	仕拂
一月	七、八五四、五〇文	七、八二、一二四		
二月	九、一〇二、二六文	一四、九二、五七一		
三月	一、九三四、三四二	一、九二、三、二二三		
四月	一〇、一九文、八三一	一五、七一九、〇五四		
五月	一、三〇九、一八八	一四、三四七、四七八		

荷為替				前年ト比較増減	
受本		仕年		受前年ト比較増減	
入	仕	入	仕	入	仕
六月	一〇、五八四、五九九	一〇、二五九、三二一			
七月	九、九三八、一〇三	一五、五〇二、三四五			
八月	一〇、四〇五、〇八七	一四、九三三、九九三			
九月	一〇、四二〇、九五一	一八、八五九、五四六			
十月	一〇、五〇九、〇九六	一五、二〇〇、七三九			
十一月	九、四九八、四四〇	一五、九三九、〇五一	三、二〇、五八八		一、七〇三、八一七
十二月	一、一、五七五、五四〇	一八、五五四、七一八	四、〇四九、〇六一		三、九九八、二一七
合計	一二三、五〇七、一五九	一八三、七一一、八七三	二二、〇四八、二四五		一、一、四七二、〇〇〇
一月	一〇、五七五、五四九	五、〇四〇、七五七			
二月	一〇、一三八、九三〇	五、五七、二五五			
三月	一、七九三、八四四	一、〇五二、七二三			

一 月	受 入	仕 入	受 入	前 年 ト 比 較 増 減
二 三 七 七 〇 五 三	一 四 七 三 五 二 七			
合 計	二 三 九 〇 一 三 一 七	八 八 七 〇 七 五 一	一 二 五 七 七 六 〇	一 三 〇 八 〇 九
四 月	一 四 七 四 九 一 二	一 四 四 〇 八 一 二		
五 月	一 一 〇 九 二 九 八	七 四 〇 二 二 五		
六 月	九 二 七 八 三 三	三 八 八 八 七 七		
七 月	四 一 五 一 五 四	一 二 五 七 二 四 三		
八 月	一 〇 〇 二 五 九 三	四 九 三 九 一 八		
九 月	一 一 三 八 八 七 七	五 二 八 五 九 四		
十 月	一 一 四 〇 一 四 四	七 二 三 三 五 五		
十 一 月	七 五 八 〇 五 四	七 三 五 五 三 七	五 四 五 八 四 五	四 四 五 四 四 五
十 二 月	八 九 三 八 五 九	五 〇 九 一 三 二	一 九 九 九 五 七 四	一 八 三 八 二 七
割 引				

二	月	一五〇四、二五文	一五九九、一三人		
三	月	二九五、一五文	一五七〇、七二八		
四	月	二五二、五九四	二〇二二、九七八		
五	月	二九〇五、六八四	一三三八、八五〇		
六	月	二三九六、八〇四	一三〇四、九四八		
七	月	一六〇九、六八四	九二二、三四五		
八	月	一五二二、四一五	一三二二、二八五		
九	月	一八五七、〇五二	一三三三、一二二		
十	月	一四七八、四二二	一三八九、二二〇		
十一	月	一四四四、三〇二	一〇八三、九二一	一四二七、三三三	九九四七、二八
十二	月	一五九九、七四二	一五七五、二三三	五三〇五、九九七	九三三、二七〇
合計		二五五二、八一五	一五七五、一九五	四四六、三三八	一三三、七七一

前諸表を見ろ小送金受拂の最多共小三月最少共一

月に在りて受入の全年合計壹億貳千參百五拾萬餘圓より
て仕拂の全年合計壹億八千貳百七拾壹萬餘圓とふる
荷為替受入は最多は三月最少は七月に在りて全年合計十
貳百九拾萬餘圓とあり仕拂は最多は七月最少は六月に在
りて合計八百八拾萬餘圓とふる

割引手形受入は最多は三月最少は十一月に在りて全年合
計貳千五百五拾六萬餘圓とあり仕拂は最多は四月最少は
七月に在りて合計千六百七拾五萬餘圓となる

以上三表の受拂金額を合計すれば受入高壹億六千百九拾
七萬六百五拾壹圓仕拂高貳億八百貳拾七萬千八百貳拾九
圓差引四千六百參拾萬千七拾八圓の仕拂超過を致せり

又大阪手形交換所に於ける手形小切手の交換高を挙げれば
は左の如し

本年		前年比較增減	
年形交換高	年	年形交換高	年
一月	一四、二八七、七五五	四、五八一、文二九	
二月	一四、四三九、三七七	四、七四七、八四九	
三月	一七、九三三、五一	四、三二六、八〇文	
四月	一五、二一四、二一四	二、一七二、一九文	
五月	一七、九〇七、三四二	五、七一五、五四一	
六月	一七、五七七、二九七	三、五八八、八一五	
七月	一九、五一三、一七三	四、四一五、四一〇	
八月	一九、四九六、六三九	文、七八三、八四七	
九月	二三、四二二、八五四	八、二二〇、九五二	
十月	二一、〇五五、五文三	五、九九三、四一〇	
十一月	二〇、七三一、四七五	五、九二八、四五五	
十二月	二四、三九一、文二八	八、五三一、四四文	

合計

二二五、九八〇、八二八

六五、〇一三、三五六

前表を見るに最多は十二月最少は一月に在りて全年合計
貳億貳千五百九拾八萬八百貳拾八圓あり之を前年小比
すれば六千五百壹萬貳千貳百五拾六圓を増加あり

茅三節 各地

本軍中各地方金利歩合を表記され左の如

[illegible]

[illegible]

方及奥羽地方は共に七月関東地方及中國地方は八月よりし
て其最低ありしは関東地方東海道及中仙道地方中國地方
と共に一月奥羽地方は一月二月北國地方は二月四國地方
は三月冲繩地方は八月九羽地方は十一月上方地方は十二
月北海道地方は七月以後に在り而して總平均に就て見る
ときは最高は五月最低は一月二月に限りやす

又前表各地方毎屈指の銀行に於ける毎月末預金貸出金銭
高及金銀在高平均し前年に比較をれを左の如し

	本年		前年と比較増減
	預金	貸出金	
北海道地方	三七八、五七八	四九八、一二三	四八、一五二
奥羽地方	三〇五、三三五	三七三、七五五	四三八、八三六
関東地方	二九七八、二三四	四、二〇、七八一	四、一、二五五
北國地方	三〇七、九七〇	五、二二、二一六	四八八、七九四
			三二、三、三二五
			九、九、一、二九
			一、七、九、四八
			九、三、〇、五〇
			九、三、〇、一七
			一、〇、三、三、六三
			一、七、九、一、三二

東海道及中 仙道地方	四七三八、七八六	五五二七、九七三	四四八、三四六	七、二二二	四九七、三二六	二〇七、〇五三
上方地方	四三、七、三三九	六、八九、二四二	九三、七、九七八	九、九、二八六	一、二〇五、七五三	三〇九、二七三
中國地方	三九八、二五九	四、七、七、三八リ	五、八、五、一五	二九八、二四九	一、五、一、〇五〇	三九、一七六
四國地方	一、八二七、五五〇	一、七、三、七、五八リ	四〇七、二一六	一、五、三、七、八二	三、二、六、一、四四	四九、二六〇
九州地方	四、四、三、二四七	五、〇、五、〇、一四二	六、六、二、六、一	八、四、三、三、八八	一、三、四、一、六七一	二九、三四三
沖繩地方	八、〇、三、四八	一、一、九、七、八、九	三、九、〇、九、〇	七、四、七、二	八、四、五、九	五、七、五、五
合計	二九、二、三、七、四六	三八、二、七、八、九九二	四、九、九、九、六四六	一、〇、四、三、三、三二	三、四、七、七、三一六	九、五、三、五、五二

前表を見れば北海道、上方、中國、北三地方を預金貸出金及金銀在高に北國、東海道、及中仙道地方を何れも預金と金銀在高に奥羽、関東、四國の三地方は金銀在高に於ていづれも減少し合計上預金に百四萬餘圓貸出金に参百四拾七萬餘圓を増加し金銀在高に九拾五萬餘圓を減少し稍金算超出の景況を呈する

第四章 商業

第一節 通覽

本年中内地商業の景況を叙述するに先づ茲に東京大阪兩地に於ける一般商況の梗概を逐月摘記せん

東京

一月、物價を昨年末稍低落到

傾きたれ共尚高貴ありし

に何れも買収を為すの

みありに祝月あり御大衆

中より旁以て商勢不振な

り但た米と株式のみを特

種の事情ありし為免獨り

盛況を呈したり

大阪

一月、概して東京を同一事情

にて不景氣甚たし但た綿

絲のみを上海の糸價引締

り孟買に悪疫猖獗ありし

等の影響を受事且つ内地

の賣行も相應ありしを為

免随分好況を呈したり

二月、商況を呈したり

81

二月、諸商業も依然不景気 ふるのみふり、方小奮正 月に際ふ、ふとて田舎 客の出廻り途絶へたるを 以て諸品の賣行一層少く 概して寂莫へ至るも米の みを依然好況あり	二月、諸商人も金融逼迫の 為免勉めて縮小主義を取 るして昨年凶作の結果田 舎より注文至つて稀ふ るし、に因り商況不活潑 獨り物價のみ昂騰の傾向 を示さる
三月、米況の良好あり、外株 式を始め他の諸商業も至 る迄毫も活氣なく何れも 店跡雀羅の嘆あり、亦も諸 相場のみを大阪と同じく 漸次騰貴の傾あり	三月、諸商業も概して沈静 夏物仕入に如きも必要品 の外更に活潑ある取引な く却て前月より一層の不 景氣を呈して諸相場は依 然騰貴に向へ架

四月、金融益、逼迫米價益、騰貴

四月、金融逼迫物價騰貴東京

せらに諸相場を日一日と

と變りたり諸商業共必要

昂騰小趣きしを以て不景

品は外賣行なり商勢不治

氣を益其度を進えり

濫を極えり

五月、春來の不景氣を逐月甚

五月、製茶呉服等幾何不好氣

しきを加へ米穀株式を首

配りきりなりし一

とし諸商況共概して萎靡

般の商況を春來の大勢を

衰退し夏物小賣行の外是

承りて愈々其極小達し諸

と目すへき取引あり諸商

物價共稍下落へ兆候を呈

人共嘆息の外ありしと

あり

云ふ

六月、沈衰小沈衰を重ねし商

六月、諸物價は概して低落小

況を金融逼迫中に決算期

向ひし小高低落の見込あり

を迎へしとて愈々寂寞	りしや金融の圓滑ありき
を極々衰物の賣行を至て	まじくは因り何れも諸仕
乏しく材木石炭の如きは	入を扣へたるのみありに
殆んど其處分に苦み諸物	地方繁忙此時節より客出
價低落此傾向を顯せり	少く商況極めて不振あり
七月上半季の不景氣を意想	七月金融の稍緩和せしむる春
外ありて各商業とも利益	未買扣續ありし及動々舊
金の少ありしのみありす	益前に際したる等の事情
中には資本金に飲損を生	湊合したるか為株式及二
しむる向もありて諸商人	三商品を多少好況を呈し
此意氣消沈しむるか為欠	ありとも其他を大率不活潑
取引更に行はれぬ諸相場	ありて取引少く價格を
も低落を示し株式此如き	前月と略同事あり

も沈睡の極に達する

八月、金融逼迫物價騰貴に結

果一般に疲弊を極め旧盆

節季に際し多量の商品化

荷動ふきと例年に其比を

見ざる所あり尤も金融稍

緩和し豊稔に聲各地に起

るに及び下旬頃より幾

何か商況回復の兆あり

九月、商況依然として不振諸

商人を概して持荷に苦み

新仕入を為すの勇氣ふか

くしも地方豊作の景氣く

八月、株式も前日より續き

銅は倫敦市場氣配恢復

の爲何れも好況を呈し

るれども其他ハ一般に

不振に陥り貿易商の如

きと輸入品到着せしむ

引取に資金に差支へ頗

る苦心の中に在りしを

九月、冬物は需の期に近つ

き且つ未作豊穰の聲盛

ありしを爲諸商業も

人氣引立ち春來最も沈

之の季節變りといひ稍治 氣を添ゆるあり月末より 冬物の取引盛に行われ 十月、各地豊穰の聲は漸く諸 商業の活動を催起し来り しも無端米價の低落格外 ありしより農家の賣惜み とあり随て地方の金融不 圓滑となり随て田舎より の注文豫想外れとなりし 可々商勢一頓物價亦低落 あり就あり	衰の甚たしかりし石炭 コークス類の如きさへ も稍生氣を呈しより の事なり
十月、先月に引續き冬物の 荷動き漸くおれあり殊 不綿糸の如きと従来沈 睡ありし及勤及香港向 此實行顕けられ為中旬 以降甚好況ありしも昨 年末の不況に懲り且々 傷きより諸商人を何れ も前途を憂ふるや千元	

の不如意あり一々小因り

手扣一方ふれハ大勢を一

般小寂寥あり

十一月、綿糸を引續き支那向

輸出地多かりし為好況ふ

まゝ此米價の大下落より

して大小地方の購買心減

抑ゝるゝ大演習の舉行

あり、志為商家一般ハ商業

上の氣衆薄かり一々小因

り諸商品の賣行悪しく取

引極えて稀少あり

十二月、東京と全據の姿より

十二月、歳末此事にて眼前必

十一月、最早歳晚ハ差迫るゝ

るゝとふれ、當用口の小商

品を幾何か賣行きしも田

舎向の諸商品少しも賣捌

なく諸商業とも概して沈

静として相場も下向の方

あり

需品の荷動は多少なれり	諸商業とも昨年末に勝
ましと全体に不景気より	て尚不振毫も年末に
一般に購買力痛く減却の	景気あり殊に石炭商況
折柄米價の下落の影響を	は不良なりしより九州
蒙りて田舎向商品の荷動	弱は此商品賣行少かり
き實小家々たりしを為必	しを以て一層沈衰を極
要品のみに就ても其賣行	えあり但し綿糸を不相
例年比半に充たざりしと	變相應へ賣行ありしと
云ふ	のとあり
右記する所を據つて之を察せると本年の商況は東西市場	
とも昨年より勝れる不景気より大坂の歳首及年末に於ける	
綿糸の賣行ありしと西市に於ける九十月頃一時人氣の引	
立ちし外全年中活潑なる商況なく上半年は昨年末の大勢	

を承けて不景氣ありし物價へみを騰貴を示せしか下半季
に移りんとするに前後より趨勢一變依然として需要は少
きを係けり漸次下落の傾向を呈するに至りしは諸
商人の如何に疲弊せしを推知するに足る事蓋し昨年
米金融逼迫及物價騰貴の甚かりしを昨年末作の不良あり
しか爲戦後一時格外の伸張を来せし一般の購買力は減少
して殆んど往時の舊に復りしえんとするに傾既に相類を
れりるに加へて本年の豊作に依りて米價非常に低落し痛
く地方の購買心を抑制するものありし等も依り斯る不況
を呈せしものあり

第二章 株式

本年中株式市場の景況を概記せん。一月初旬を大阪は市況振を以てし、東京も昨年末の好況を其終に承継きて、幾會よりして非常な好景氣其内大阪にも波及し、中旬後を東西均しく買進み價格も昂騰し傾きあり而るに二月よりては買過の結果、別に是と指すへき原因なきに諸株を概ね幾會を高直として漸次低落し然りけるも多し、持合の状を呈し、商勢活潑なり、三月に入りては金融緊縮の度益甚しく別小株式界の好材料とふるへき事件も無かりし、而るに前月末の氣勢を襲ふて依然不振、諸株一般に下落を示さる、但し炭礦株のみを前月末東京に於て有力なる買煽を以て獨り暴騰を告げ、四月に入りて東京は前月末に於て炭礦株の受渡不始末ありし為に立會日數僅かに五日間

に過ぎず大坂も上半月を東洋問題の風雲急ありしか上に
東京市場休會の影響を承きて大賣物顯けられ場面總角れ
景況ありしも下半月ハ夫等の愁雲開きて頗る好況を呈し
たり五月を東京の上半市場に於て種々の附人氣の爲好
況ありし外東西共不味の商況を以て此月を了せり六月ハ
財政方案の否決尋て議會の解散亦て人氣挫折且つハ決算
期ありて金融一層逼迫を告ぎし等に因り前月と不相變免角
引立たざる商況ありし尤も政府此公債買入ありしより公
債價格を騰貴して九拾六七圓とあり七月ハ移りては新内
閣の財政方針未判明せりしを概して不振ハ沈み大坂
のみを初旬に於て稍好況ありしに兵庫倉庫會社不始末事
件より意外の頓挫を爲り八月に入り上半月を薄商内の
みより前月と異なる所なきも金融の緩和未作の豊穰外國

貿易の好兆等に因り、下半月を頗る好況を呈し、九月ハ引續きて商況活氣を帯ひ諸株概して昂騰し殊に東京の如きは非常の出来高あり、又下半月に至るに及び財界の好望あり、一時水害の聲大ありしに因り、氣勢一頓市場不味の光景とみれり、十月は内閣の動搖、公債買上へ停止及支那問題の暗澹多ぶ等の然り、又る所か一二株を除くの外概して低落沈靜不振の市場あり、十一月ハ政治問題の動搖に伴ひ一高一低殆んど氣迷の中ハ在り、又月末に於て政府と旧自由黨との提携成り、又より頗る好況を呈するに至り、十二月を本行の金利引下及一般金融の緩和地租増加案の通過等にて年柄も似合ひ、年末の商況甚る振つ之を要する、本年の株式市場ハ一月、十二月の兩月及其他に於て時々好況を呈したるをみれば、概し

て沈静として之を昨年小比する小一層不振ありしものと
謂ふべきあり今東京大阪両市場小於去年賣買高を月別に
之を表記せしむる左の如し

東京

本年		前年		比較増減
月	金	月	金	
一月	三七九、九九九	二〇〇、一二一	一七九、八七八	
二月	三一五、四三三	三八六、九七三	七、五四〇	
三月	三四六、七〇九	四二二、四四七	七五、七三八	
四月	一八二、七〇三	三三二、四八四	一四九、七八一	
五月	二五五、七七〇	三〇二、九一二	四七、一四二	
六月	二一三、〇一〇	二九六、〇五一	八三、〇四一	
七月	一八二、二六五	三〇一、七四八	一一九、四八三	
八月	二九七、二四〇	二〇〇、七九三	九六、四四七	

大坂		本年	前年	比較増減
九月	五〇八、〇七〇	一九五、九七三	三一六、〇九七	
十月	三四一、二二五	三四〇、二〇七	一、〇一八	
十一月	三〇四、八七〇	二文四、九四三	三九、九二七	
十二月	四〇三、七九五	三二二、九一八	八〇、八七七	
合計	三、七三六、八九	三五、七五七、五七〇	一、五三、五〇九	
一月	二八八、二文四	二二八、七七〇	五九、四九四	
二月	二文九、五二文	四一五、八五八	一四七、三三二	
三月	二文文、四四五	五二九、四二四	二文二、九七九	
四月	二八〇、四文文	四九七、三七八	一七六、八一二	
五月	二三三、一文文	三四〇、四一一	一〇七、二四五	
六月	一八文、五五三	三〇四、五二九	一一七、八七六	

七月	一、三、七、七、五	三、五、〇、〇、九、一	一、八、文、三、一、文
八月	二、〇、八、〇、五、八	二、文、七、九、七、文	五、九、九、一、八
九月	二、三、文、九、六、九	三、二、九、二、八、四	九、二、三、一、五
十月	二、一、二、一、二、八	三、三、九、七、九、三	一、二、七、六、六、五
十一月	一、三、五、九、五、七	三、三、〇、七、九、八	一、九、四、八、四、一
十二月	二、二、二、八、五、五	三、二、六、二、二、六	九、九、三、文、一
合計	二、七、〇、四、二、七、二	四、二、一、七、四、三、八	一、五、一、三、一、文、文

前表を見るに、賣買出来高の合計東京ハ参百七拾参萬餘株
 として、前年より僅か小拾六萬参千餘株を増加し、**大**
 阪を貳百七拾萬餘株として、實小百五拾壹萬餘株の減少を
 又本年中諸公債及各種株券價格の變動を示さん、**乙**為直取
 引相場の高低及平均を表記すれ、左の如し

本

年

前年ト比較高低

額面及払込額 最高 最低 平均

整理公債

一〇〇〇

九六〇

八八〇

九三八四

〇

五五五

三七〇

四〇五

海軍公債

一〇〇〇

九四八

八七〇

九三九二

〇

五五〇

五二〇

四五七

軍事情債

一〇〇〇

九六二

八八〇

九三九七

〇

五五三

三八〇

四一三

五分利公債

一〇〇〇

九五〇

八七五

九二七五

〇

五九二

三〇〇

四六七

東京市債

一〇〇〇

九六八

九二五

九五七四

〇

五九二

三〇〇

四六七

大坂市債

一〇〇〇

九七〇

九二五

九五七四

〇

五九二

三〇〇

四六七

京都市債

一〇〇〇

九八〇

九二五

九五七四

〇

五九二

三〇〇

四六七

九州鐵道社債

一〇〇〇

八〇〇

七三〇

七七〇四

〇

五九二

三〇〇

四六七

日本鐵道社債

一〇〇〇

八九〇

八四〇

八七〇三

〇

五九二

三〇〇

四六七

日本郵船社債

一〇〇〇

八九〇

八四〇

八七〇三

〇

五九二

三〇〇

四六七

日本鐵道

五〇〇

七五〇

五九〇

五七〇

〇

五九二

三〇〇

四六七

山陽鐵道

四〇〇

五四八

四〇〇

五七〇

三〇

一四八

四〇〇

五

九州鐵道	四〇〇	九八	一八	五五	六二	一一	一二	二四	二五
炭礦鐵道	五〇〇	二五	七〇	九〇	六一	七三	五〇	四五	
関西鐵道	五〇〇	四七	四七	四九	〇六	一六	一〇	一〇	一九
参宮鐵道	五〇〇	七五	七五	七九	七二	一六	四〇	五九	
甲武鐵道	五〇〇	一八	九〇	九二	五七	三六	一〇	七五	二〇
川越鐵道	五〇〇	五三	四〇	四九	二	五〇	一〇	一七	
播但鐵道	五〇〇	四〇	五七	三	五七	一三	五〇	一三	八三
大坂鐵道	五〇〇	九〇	七八	八五	七五	二五	二〇	一〇	一七
讃岐鐵道	五〇〇	九五	五五	五〇	四	一六	一〇	一五	五〇
房總鐵道	五〇〇	三九	二五	三	八四	一五	一三	一四	五五
總武鐵道	五〇〇	九七	七三	八一	九九	三二	二一	二七	八九
南海鐵道	五〇〇	七一	五三	六七	二六				
東上鐵道	五〇〇	二〇	二〇	二九	四二	六五	八〇	四二	二六

日本郵船	五〇	五九	四〇	五九	五	二三四	五〇	七〇八
大阪商船	二五	三二	一四三	五五	ハ	一四六	五〇	一〇一八
東京湾汽船	二五	五〇	一三	一九	ハ	二	一二〇	五二
鐘淵紡績	五〇	五九	四〇	四三	ハ	一二三	一〇	一一八七
東京紡績	五〇	五五	四三	五八	ハ	三二	七〇	一八〇九
東京電燈	五〇	五五	三	四八	ハ	九	一七〇	一一八
東京瓦斯	五〇	八四	五	五八	ハ	七	二五〇	一八四
富士製糸	五〇	五九	三	四八	ハ	一七	一二〇	一五〇
日本麦酒	四〇	七二	五	五九	ハ	五	五〇	四〇九
日本セメント	二五	三三	一七	二八	ハ	一〇	九	二三一
東京株式	五〇	一九	一四	一五	ハ	二三七	四二	一三一九
東京米穀	五〇	一四	八	一二	ハ			
山金銀行	一〇	一九	一五	一七	ハ	三五	九	二六九

十五銀行	一〇〇〇〇	二五〇〇	八〇〇〇	一〇〇四五	一九六〇〇	五二〇〇	八七四八
海上保険	一〇〇〇〇	七五〇〇	四〇〇	二〇二三			
東京商品	二五〇〇	六五〇〇	四三〇〇	五四四八	二八〇〇	一六〇〇	一八八〇
帝國商業	二五〇〇	三〇〇〇	一九六〇	二三八四	三三〇	五四〇	三九〇
日本銀行	一五〇〇〇	四一〇〇〇	三三三〇〇	三三七八	一〇〇〇	一五〇〇	三六一
奈良鐵道	五〇〇〇	六四〇〇	四八〇〇	五四二四			
成田鐵道	五〇〇〇	三三〇〇	四四〇〇	五二七三			
豊洲鐵道	五〇〇	七五〇〇	五九六〇	六九七六			

前表に據りて前年と對する比較を見るに、公債株式共其一
 二を除く、此外總て著しく低落を示せり

第三節 米況

本年中米穀市場の景況を察するに相場は未曾有の激變を
 あし暴騰よりして暴落に推移せり蓋し三年来引續ける不
 作殊に昨三十年の大凶作ありし後を承りしを以て各地共
 米穀の不足せるを甚しく常に外國米の輸入ヲ以て之を補
 足を爲し乍ら相場は連月上進の一方小て本年米作の良
 好ありしか如きと毫も顧みざる所なくして遂に八月には
 正米標準相場拾七圓六拾八錢と云へる無比の高價を顯は
 すに至り其間深川倉庫在米の如きを昨年同時に比し常小
 五千万石乃至七千万石の減少を示さるに天運漸く其
 順に還り本年ハ抑秧の頃よりして氣候順適愈々新米を見
 るに及んで其豊作たるを疑ふ且つ外國米の輸入も益々
 多かりしかは兩者相依りて茲に米價は下落を促し爾後

一湧千里の状勢を以て低落し就き十二月には九圓参拾参
 銭まで暴落あり最も各地共米の出廻り少く深川倉庫在
 米高の如きも年柄に似て常に少額なりしは蓋し米價下落
 の甚しきより各地の農家をして売惜を為さしえりるに困
 るものありん

茲に定期米市場毎月の概況を述べん十一月東京は三月期
 より外國米の代用を許したる結果幾會の當時を意外の格
 安に生れ甬後漸次上進し多れども商勢は概して沈靜大坂
 ハ堂島米穀市場紛擾の爲全く休會二月東京は中旬に於て
 地方より注文ありして正米市場の好況ありしをに連れ一
 時は場面頗る賑ひも上下旬共兎角不振の商状大坂は先
 月来の紛擾して久しく休會し廿六日に至り始めて開市
 兵庫桑名等に於る米價騰貴の影響を蒙り一日大突飛の上

騰を顕きるも直に其反動ひて大下落をふくり三月東京は
中旬に至り大坂組と云いは一團休顯け也不當の相場を賣
崩したる結果十五日以後再度の立會を中止して紛擾中に
越月し大坂を中旬に入り正米筋の強気派連りに買煽り買
進みふより破竹の勢を以て騰貴し月末に多少の低落を
告つり四月東京ハ前月末に於て四五兩月期の解合あり
しを以て單に六月期のみを賣買と爲し一時は上進の模様
ありしも外國米輸入の報に接ふ氣勢頓に一變し爾後累日
下落し月末に至り少しく回復の兆あり大坂は九筋四國中
國地方の貯蓄米甚少しに東北地方の需要多うし
為大に活気を呈し五月ハは非常の高直を唱ふるに至りし
も其後高價か賣出を誘ひたるや外國米の荷支を生じ
小因り漸次低落月末に小戻を爲なたり五月東京は穀會に

於て頗る好況を呈さしも各地麦作の發育充分ありしを外國米未曾有の堆積をふさしより相場も逐日下向す下旬ハは暴落を告ぎ一時反動の気味ありしも気配竟に昂る大坂を下旬に外國商館が本國の高直を唱へて外國米の賣止を為ししを為一時気配を取直さるも大勢は漸く低落を告ぎ六月東京は正米市場に在米減少の影響にて買人氣を生し相場日一日と昇進し大坂を月上旬は賣幕ひの商勢も漸次下落さしも外國米の賣行ありしと直江津大欠の爲多額の米穀を焼失したる等に因り相場を一時昇進さるも大勢を低落の傾向を有さる七月東京を前月の好況に連れ相場愈々昇騰し其後多少の頓挫を経過して廿五日に至り北國筋の買物現れしと上方筋突飛を唱へしとにより益々昇進し大坂を中旬より下旬に掛けて害蟲發生の

風説傳けり爲一時昂騰を示すも其他々天候の順良稲作の経過宜しきより各地方より賣物續々顕れ低落の一方に傾きより八月東京を強弱兩派の衝突を恐れて五日また休會し爾後靜穩ありしも各地豐作の報を弱気派の気焰を加へ十六日に至り市場總崩れとなり續ひて七月期受渡格米につき紛擾を来し十九日再び立會を休止し其後三期受渡米共解合に重なり遂に成るに開會後も宛然中止中の光景を以て越月し大阪は上旬外國米の清國地方へ逆輸出せられより稍騰貴し中旬迄は高下の儘経過より外國米の輸入ありして本年の豐作を見越し各農家の賣出し盛んありしより由り相場を気崩れとなり一時は暴落を告ぐるに至り而る小月末に至る小及ひ東風吹荒み天候甚不穩ありしうは相場を稍引直しより九月東

京は前月末の紛擾未だ全く治まらぬ立會を形式のみとて
一の手合もなからず大阪は豊作の聲に壓せられて大勢低落の
傾を帯ひしも安直の反動水虫害の風評及清國政變の報に
接し時々昂騰を示さるるを十月東京ハ上旬東海道筋
此買物續々現けし且つは地場の買添踊物等もなれりて
治澁あふ取引を見たりし其後正米の下落天候の好良正
米筋の投出等にて相場は漸次低落し大阪を九州中國筋の
虫害甚しとの噂ありて一時人氣買方に傾き相場は随て昂
騰きしも大勢は下落の傾向著し十一月東京は天候の順
良ありし為漸次低落の大勢ありしに正米は輸入續々
之より相場暴落を告げ概して沈静の商状大阪は農家小粒
て米穀賣急き此状況ありしと市場當用口の外買扣へて
小より相場は益低落し月末に至り輸出の約束成りしを以

て稍高氣配に變し、十二月東京は上方安直の報に接し、漸次下落し、正米相場の下落、正米の潤澤より買方の投物續出し、相場は益々低落し、神戸港より輸出米の報によりて一時上進し、大勢は安含みなるが北國より巨額の米穀輸入と傳へられて暴落を為し、大坂を輸出米の輸出約束出来と九州地方賣惜をふり、因り聊々氣配を取直ふなりしも、大勢は東京と全くと日々低落に向ひ、以て本年を終りたり、乃東京大坂両地定期米取引所の景況を擧ぐ、前年に比較すれば左の如し

東京米穀取引所賣買石數

本年		前年		比較増減
一月	三七二、八〇〇	五八九、〇〇〇		二一六、二〇〇
二月	五一五、一〇〇	七一二、七〇〇		一九七、六〇〇

三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
三四六、八五〇	二六六、六〇〇	六四二、八七〇	五七〇、七五〇	五三七、六五〇	一七三、五五〇	休會ニ付皆要	四一八、五五〇	六〇六、〇五〇	一七八六、一五〇	五、二三六、九二〇
九五七、二五〇	六〇八、七〇〇	四九八、一〇〇	一、〇二六、八五〇	三〇四、九〇〇	四九五、三五〇	一、〇二三、四〇〇	一五二、一、二〇〇	一、〇三六、五八〇	五六一、二五〇	九、三九五、二八〇
六一〇、四〇〇	三四六、一〇〇	一四四、七七〇	四五六、一〇〇	二三三、七五〇	二八、一八〇	一、〇二四、四〇〇	一、〇二六、五五〇	四三六、五三〇	二二四、九〇〇	四、〇五八、三六〇

大坂堂嶋米穀取引所賣買石數
本年 前年

比較増減

一月	休會、付皆嬰	一、〇六三、三〇〇	一、〇六三、三〇〇
二月	休會、付皆嬰	九九四、四四〇	九九四、四四〇
三月	一、一三二、三〇〇	一、〇五四、四四〇	七七八、八六〇
四月	一、五七四、三四〇	一、〇七四、八八〇	四九九、四六〇
五月	一、九七七、八〇〇	一、一三一、七〇〇	八四六、一〇〇
六月	一、三二五、六八〇	一、七二七、一五〇	四〇一、四七〇
七月	八一八、七〇〇	一、〇八二、四〇〇	二六三、七〇〇
八月	四九一、九五〇	八四四、八〇〇	三五二、八五〇
九月	一、三八五、四〇〇	一、七七五、四〇〇	三九〇、〇〇〇
十月	九五一、九四〇	一、三三八、五〇〇	一三八六、五六〇
十一月	一、一一〇、四〇〇	一、九八四、四〇〇	八七四、〇〇〇
十二月	一、三〇八、八〇〇	一、〇七五、九八〇	七六三、一八〇
合計	一、二〇七七、三一〇	一、七一四三、三九〇	五、〇六六、〇八〇

前表を見うふ東京を十二月の七拾八萬餘石を最多八月の拾七萬餘石を最少とし前年に比し五、七、十二の三ヶ月のみ稍増加し大坂を五月比百九拾七萬餘石を最多八月の四拾九萬餘石を最少とし前年に比し三、四、五の三ヶ月のみ増加を示し合計小於は東京大坂共著しく減少なり

尚又定期相場の昂低を詳悉せんゝ為先物相場に就き其最高低及平均を擧ぐれを左の如し

東京定期米相場

	本年				前年ト比較			
	最 高	最 低	平 均	最 高	高 最	低 最	平 均	高 低
一 月	一〇四二	一〇二〇	一〇二九	大 一〇		〇大 三	五九 三	
二 月	一〇五〇	一〇二〇	一〇二八	七二 七		〇大 七	七〇 六	
三 月	一一三〇	一〇一五	一〇四三	四 五		一三 四	一〇 八	
四 月	一六二〇	一四九二	一五三二	四 一四		三二 〇	三四 二	

大坂定期米相場

二 月	一 月	最 本		平 年	前 年 ト 比 較		均
		高	低		高	低	
休	休			會			
平均		一三三四	一一三九一	一一七九四	〇二九	二二四	〇八五
十二月		一〇三六〇	九一六〇	九五五三	二四二〇	二七六〇	二六六七
十一月		一〇七〇〇	九七三〇	一〇三〇八	二七四〇	二五九〇	二六九三
十月		一二七〇〇	一〇七三〇	一一二八三	一六八〇	一〇七〇	一二五八
九月	休			會			
八月		一二八二〇	一二四二〇	一二六四五	一〇五〇	一五五〇	一三三八
七月		一三二八〇	一二六六〇	一二九五三	五八〇	四〇〇	四九六
六月		一三五五〇	一二五九〇	一三一〇七	六二〇	七九〇	八五六
五月		一四八二〇	一三八二〇	一三六五〇	二五四〇	七六〇	一四五五

三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
一四二八九	一四六六四	一三三三四	一二〇五五	一一七九〇	一一五二〇	一〇七四〇	一〇七八〇	一〇三四〇	九五一〇	二一八九〇
一二四七六	一三三二九	一二七二四	一二四九〇	一一二〇〇	一〇六三〇	一〇一五〇	一〇一五〇	九三二〇	八七五〇	一〇九二〇
一三四五四	一三七八五	一二三二六	一一八一〇	一一五七九	一一二七三	一〇五二七	一〇四三三	九七三三	八九九〇	一一三五一
三二四一	三五二五	一二九二	〇八〇	〇三二	四七六	六〇一	一三三二	二〇九九	二四〇四	一九九六
一八三一	二四九九	三〇八	〇九八	四六三	二二三	〇三九	一〇四〇	二六八一	一六九五	〇九六
二六七九	二七六〇	五三九	〇八〇	一〇六	五九七	二四七	一一五八	二四六八	二四六五	二六

前表に據れを東京に於ては四月の拾六圓拾壹銭を最高と
 二月の九圓拾六銭を最低とし大阪に於ても亦四月の拾四

圓六拾六錢四厘を最高十二月の八圓七拾五錢を最低とし
 平均上に於ては東京大坂とも年初より漸次騰貴し四月に
 至て最高を示し以後遞下して年末に至り之を前年に比
 すれば三月より八月に至る六ヶ月間八概して騰貴し其他
 も低下を示し

又東京大坂両地と於て正米相場を擧ぐれば左の如し

東京正米相場

月	本年			前年ト比較		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均
一月	一三三三三	一三三三三	一三三三三	二九六	三二八	三〇七一
二月	一四八五	一三四三	一四〇五	四九五	三九一	三八二四
三月	一四八五	一四八五	一四八五	三八三九	四〇六二	三九九一
四月	一六七二二	一六二九	一六四三	五五八五	五三七六	五五九三
五月	一六七三三	一六三九四	一六五七八	五四七一	五二五七	五三二四

大	七	八	九	十	十一	十二	平均
月	月	月	月	月	月	月	月
一六九三九	一六九三八	一七二四〇	一六三二〇	一三七九三	一二九〇二	一〇八四六	一五二一五
一六三三九	一六六一〇	一六三二〇	一四〇八五	一二九〇三	一〇六〇五	九四七八	一四二〇五
一六五二六	一六六七八	一六八〇九	一五五七〇	一三二六八	一二一三五	一〇〇三八	一四六八三
五一一三二	四七七三	四八六四	三三六七	九二七	一一八三	二八六六	二九五七
四七〇二	四八二〇	四四八二	一八九二	三四二	三一〇八	三八五五	二四九七
四九八四	四七二〇	四七三〇	二九二七	四一二	一七八四	三四五三	二七九〇

四月	一六一〇	一五四〇	一五九六	五五五	五〇〇	五四八
五月	一六一〇	一五八〇	一五九四	四九六	五二五	五〇七
六月	一六三〇	一五九〇	一五九六	五〇五	四八五	四八二
七月	一六九〇	一六二〇	一六三二	五三〇	四九五	四九三
八月	一六二〇	一五五〇	一五九六	四六〇	四二〇	四五一
九月	一六一〇	一四二〇	一五四二	四〇〇	二九〇	三三〇
十月	一四〇〇	一二一〇	一三二二	八〇〇	一〇〇	五三二
十一月	一一八〇	一〇二〇	一〇八三	一五〇	二九〇	一九九
十二月	一〇一〇	九六〇	九四三	二六〇	二九〇	二八五
平均	一四六五	一三三八	一四一八	三一二	二五四	二八四

前表を見よふ東京に於ては八月を最高十二月を最低大坂
 ハ七月を最高十二月を最低平均に於ては東京大坂と
 七年首より七八月へ交に至る迄を漸次に騰貴し以後漸次

低落不就あり八月ハ又ハ主トシテ米價大ニ暴落スル
又正米の景況を見人ハ為東京深川倉庫在米高を調査せる
小平均上最多きは三月最も少きは九月ヲ以テ拾壹萬俵乃
至貳拾八萬俵の間を昇降し全年平均拾九萬俵トスル茲に
之を表記シテ前年に比較すれば左の如し

月	本年			前年ト比較増減		
	最多	最少	平均	最多	最少	平均
一月	三〇三、九一二	二一七、九九三	二五八、八三四	五四〇、四五六	五七三、二七	五五八、一〇八
二月	二九五、〇九三	二五九、二〇四	二七七、三三九	五七六、四四七	五五八、四一七	五六九、八五七
三月	三三四、〇九九	二一五、九四六	二八〇、七七五	六三〇、六四八	五七八、七二三	五七九、三三八
四月	二二一、九五〇	一七六、一七五	二〇一、九八九	七三二、六七二	七一九、三四八	七二四、九五八
五月	二〇七、七二三	一五三、〇二五	一八八、〇九六	七五九、六九四	六八五、〇一五	七三三、四五六
六月	一九五、八五四	一四九、一五ト	一五八、五四二	六五一、九七一	五三三、三三五	六〇三、三〇六
七月	一五九、二四九	一三三、九三一	一四四、八二七	五二二、八六六	三三三、一八四	四二二、三三六

八月 一四、五三、五二
 九月 一三、七四、五二
 十月 一、三八、八八、三
 十一月 二、五八、八八、六
 十二月 二、八七、七、二
 平均 二、三九、三、五、四
 又全國各地方の正米相場を見るか、全年平均と前年に比し
 て各地方共に總て著しく騰貴を示さる。茲に各月の相場を
 擧げて前年に對照すれば左の如し

	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	平均
北海道地方	一五、三〇 一四、七五	一五、七〇 二一、一〇	不詳 二一、五五	一七、三〇 二一、三五	一七、二〇 二一、六五	一六、四〇 二一、七〇	不詳 二一、七五	不詳 二一、七五	不詳 二一、七五	不詳 二一、七五	不詳 二一、七五	不詳 二一、七五	一五、三〇 一四、七五
奥羽地方	一三、六四 八、六五	一四、四三 八、六六	一四、九五 八、九六	一五、四八 九、四八	一五、四四 一〇、六八	一四、五九 一〇、五五	一四、六七 一〇、四四	一三、九七 一〇、七一	一三、七七 一〇、二一	一三、七五 一〇、二一	一三、七五 一〇、二一	一三、七五 一〇、二一	一三、六四 八、六五
関東地方	一三、一五 一〇、二八	一四、〇九 一〇、四八	一五、三七 一〇、七五	一五、一〇 一一、二四	一五、九一 一一、八四	一五、八〇 一一、二二	一五、五九 一一、三九	一五、二五 一一、三三	一四、三三 一一、一一	一四、二五 一一、八五	一四、三二 一一、三七	一四、三二 一一、三七	一三、一五 一〇、二八

[illegible]

第四節 銀行會社

戰捷後諸企業勃興し銀行會社等の陸續として新設若くは増資せられしを廿八年小始まり廿九年最も著しく三十年之に次ぎ資本の増加毎半億を以て數つても本年に至りては大に其趨勢を變し獨り新設増資に係るもの復曩日の如く盛んありきしのみならず又同時小解散しあるものあり財界の事轉寂寥た觀ありしもの之を計數上に照し實査するに特に鐵道會社の社數に於て減少を見けたるの外猶多數の新設と巨額の増資とありしを見る今其社數及資本金を表記する左の如し

銀行	社數	本年		社數	前年同時ト比較増減	
		資本金	末日		資本金	金
鐵道會社	九一	公称 松込 一五七、五二〇、七九四	公称 松込 二五五、八一八、九五二	二〇四	六三、二八三、三三四	四七、〇五七、〇三四
		公称 松込 二九七、二三五、〇〇〇	公称 松込 二五五、八一八、九五二	二三	一六、四六九、〇〇〇	二二、一三六、五〇〇

12

又本年中各國立銀行利益割合を見らる左の如し

諸會社	二、三七二	公称 三二五、三七七、七七四	一九二	一〇、七九五、七五四
合計	四、二七二	公称 一五七、八九一、二三四	三七三	九、一〇、七五四、一〇八
		公称 一〇、七七、四八九、七七八		七八、二九三、五三四
		公称 五七一、二三四、九七九		

備考

本表銀行欄公称資本金及拂込額ハ大藏省の報告に諸會社の公称資本金は官報面免状及農商務省の報告に據り鉄道會社の公称資本金は官報面免状及便免許状下付のしつゝ之を算出し鉄道會社及諸會社の拂込を概算し過ぎざるべし

	上半年	下半年	全年	上半年	下半年	全年	前年ト比較増減
資本金	八三、〇、〇〇〇、〇〇〇			一三、三、〇〇〇、〇〇〇			
利益金	八九、三、八、三三八			一、五、五、九、三三四	五七四		
積立金	九、〇、二、五二三			七、〇、四、三、五	六一四		
割賦金	四三、四、〇、〇〇〇			七、九、八、六、七	一二二		
資本百円付利益金	一〇、九、五、八			四、六、九			
同割賦金	七、〇、二、九			一、〇、四、五			
備考	積立金は別段積立金も含められず						

又鐵道會社をして本年中其筋の認可を経て敷設免許状を
 下付せらるゝもの及既成鐵道の運轉を開始したるも此
 を舉ぐれを左の如し

私設鐵道敷設免許状下付のもの

會社名	新設者 延長 付月日	免許状下 軌道 幅員	線路	延長哩數	資本金額 及工費豫算	會社位置
石巻	新 一月十二日	三呎六吋	自宮城縣石巻 至同縣塩屋沢	三九・五二	一七〇、〇〇〇	宮城縣石巻
毛武	新 一月十七日	全	自日本鐵道校橋停車場 至同足利停車場	五・三七	二二五、〇〇〇	東京府東京
関西	延 三月十日	三呎六吋	自関西鐵道加茂停車場 至京都府木津	二・七七	一八五、〇〇〇	
中越	延 五月十一日	全	自富山縣高岡 至同伏木	四・一〇	二〇〇、〇〇〇	
豊州	延 八月卅日	全	自福岡縣金帳野田、浦 至九所鐵道曾根驛	一・三七	同	
私設鐵道敷設假免許状下付のもの						
會社名	新設者 延長 付月日	免許状下 軌道 幅員	線路	延長哩數	資本金額 及工費豫算	會社位置
日奈久	新 一月十七日	呎六吋	自熊本縣日奈久港 至同高田	五・四〇	九〇、〇〇〇	熊本縣八代

全		中誠鐵道		九州鐵道		全		官設鐵道		全		速多新		尾張新		大湊新		釜石新		録倉新	
早岐		出町		早岐		金沢		小松		金沢		至		至		至		至		至	
佐世保		高岡		大村		高岡		金澤		高岡		至		至		至		至		至	
五五〇		四四五		二二三		二五二九		一七八		二五二九		四〇〇		二〇〇		二〇〇		四〇〇		七〇〇	
同		一月二日		一月廿日		十一月一日		四月一日		十一月一日		許國縣金指		東原東京		青森縣青森		岩手縣深茂		岩手縣録倉	

運輸開始分

厘

間哩

數

開通月日

高野鐵道	大落	狹山	五五二	一月三十日
成田鐵道	佐原	滑川	九〇〇	二月三日
九州鐵道	臼井	下山田	三三二	同日
山陽鐵道	徳山	三田尻	一五三七	三月十七日
河陽鐵道	柏原	古市	二五五	同日
西成鐵道	大坂	安治川口	三五二	同日
高野鐵道	狹山	長野	四六六	四月二日
日本鐵道	中村	原所	一二四〇	同日
尾西鐵道	弥富	津島	五一三	同日
紀和鐵道	五條	橋本	一六〇一	同日
河陽鐵道	古市	富森	三三一	同日
関西鐵道	加茂	大佛	五三五	同日
関西鐵道	累暖	長尾	八二三	同日

伊萬里鐵道	岩越鐵道	近江鐵道	北越鐵道	近江鐵道	及鶴鐵道	関西鐵道	豆相鐵道	日本鐵道	奈良鐵道	紀和鐵道	豊川鐵道	七尾鐵道
伊萬里	郡山	愛智	長岡	彦根	寶塚	新津	三島	原町	京終	船戸	一宮	津幡
有田	中宿	八日市	一木戸	愛知川	塚口	長尾	南条	小高	櫻井	和歌山	新城	七尾
八	一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二
一一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三
八月	同	七月	同	同	同	六月	同	同	同	五月	同	四月
廿七日	廿九日	廿四日	十七日	十一日	廿八日	四日	十五日	日	十一日	四日	廿五日	廿四日

日本鐵道	久濱	小高	三三	一七	八月	廿三日
関西鐵道	新木津	木津	〇二	二九	九月	十六日
南海鐵道	尾崎	磐城	一一	七九	十月	廿二日
関西鐵道	放出	綱島	二四	一	十月	十八日
関西鐵道	加茂	新木津	三	五四	同	日
九州鐵道	大村	長興	二〇	五五	同	廿七日
唐津鐵道	妙見	山本	五	二四	十二月	一日
唐津鐵道	妙見	大島	五	五	同	日
中國鐵道	岡山	津山	三四	五五	同	廿一日
北越鐵道	北條	長岡	一七	四四	同	廿五日

其他本年中銀行及會社等に関する重要なる出来事を挙ぐ

これは左の如し

一月

○四日 大坂商船會社ハ清國航路(上海漢口間)を開始す

○六日 京都市百十一銀行支辨停止を為す

○六日 帝國東京日本日本海陸の四海上保險會社ハ大坂
小松で協議會を開き從來競争の結果其不利ふりを知
り乍ら改正し能くし條項に就き審議決定する所

○十五日 京都手形交換所事務を開始す

○十六日 大坂第三十二國立銀行は浪速銀行と改稱し資
本金百八拾萬圓を以て營業を繼續す

○十八日 百十一銀行を其筋より營業停止を命ぜらる

○十九日 大坂堂島米穀取引所ハ仲買人貳拾名に對し營
業停止を命ぜらる

○十九日 第三銀行外四行を相互契約の上大坂築港費出

納取扱方株式會社第三銀行出張所を設置し共同任免の下に監視管理人書記等を置く

○廿三日 日本海陸保險會社は總會を開き改正條約實施準備の爲定款を改正す

○廿五日 百十一銀行舞鶴支店管業を停止せらる

○廿九日 帝國商業、日本興業、兩行合併ヲ決行ス

○廿九日 福井縣農工銀行株主は縣廳の不正を發見し之を稱して大小騷擾を極む

○此月中 各地米穀取引所は四月期賣買より外國米の代用を許せしに決定せり

○此月中 近江鐵道會社を海外より注文品到着せし其代價を支拂ふ能けしむを爲重役は總辭職をふした

と云ふ

二月

○一日 堂嶋米穀取引所理事長^及理事等は農商務大臣より

の命令を執行し能けりとの廉を以て各解職を命ぜらる

○三日 東京市三頭銀行組織変更の名ヲ以テ休業す

○八日 京都市各銀行は協議會を開き京都同盟銀行集會

所の設立を可決し規約を定む

○八日 日本鐵道會社臨時總會を開き定款の改正を議決

に

○十日 横濱正金銀行は金利引上を決行す

○十一日 大坂市百三十國立銀行ハ臨時總會を開き本年

七月より私立として営業を繼續し資本金を百五拾萬

圓小増加するの件を可決す

○十五日 京都貯蓄銀行は善後處分を了し再び開業を

○十六日 紀和鐵道會社株主中の同盟者は臨時總會を開

き全會社理事務督勵役員淘汰等につき運動の部署を
定む

○十九日 大坂商船會社を資本金の減額を可決す

○廿一日 山陽鐵道會社を重役會議より於て三田尻有帆間

線路延長資本金九百萬圓増加此件を議決す

○廿二日 東京米穀取引所を重役會議を開き台灣米を内

國米の一種として受渡手續を為すへきを決定す

○廿三日 歐洲航路汽船同盟會協議會を横濱に於て開會

せられ其運賃割合を復舊して參拾貳志と為す

○廿四日 日本勸業銀行ハ臨時總會を開き此月二日假定

せる定款改正の件を議決す

○廿五日 日本鐵道會社の機關夫及火夫等各駅を通して
一時小同盟罷業を爲す

○廿五日 大坂組合銀行月次會ハ送金手形廢止小切手代
用の件を否決す

○廿八日 各移民會社及各移民取扱者を東京ニ於て大會
を開き聯合事務所を東京に設置すると、し幹事を撰
挙に

○廿八日 関西地方私立鐵道會社は運輸課長會議を京都
小開き貸金駄名雇人等の件につき協定する所なり

○此月中 帝國商業銀行を合併後の重役撰舉につき黨派
を生し互に株主の委任状蒐集に努むる等穩ふらざる
風説ありしも仲裁するものなり遂に旧頭取の指名
せる重役を承認する、ふより

○此月中 姫路第三十八國立銀行を來七月一日より株式會社三十八銀行と改稱し資本金百貳拾萬圓を以て營業を繼續すると小つき其筋の認可を受く

○此月中 堂島米穀取引所を依然紛擾を極え或は調停委員の上京とあり或を東京米穀取引所役員の下段とあり多方向して仲裁を試みしも容易に解合に至りしりし中甸の頃に至り仲裁者の盡力其効を奏し双方合意の解合を為し理事の新撰を行ひ始めて其落着を見たり

○此月中 大阪地方の紡績會社を運轉資本の欠乏の爲或は夜業を休止し又を全部の休止を為す等甚だ困難を極えしり云ふ

三月

○一日 東京米穀取引所を台湾米受渡價格につき紛議を生じ

○一日 九州鐵道會社を臨時總會を開き船越鐵道豫定線布設權讓受の件定款の改正等を議決す

○三日 松山商業會議所設立の認可を受く

○三日 神戸棧橋會社の倉庫焼失し棉花八千餘俵及雜貨等より損害高約百萬圓に上る

○五日 船越鐵道會社を總會に於て其線路を九州鐵道會社に讓渡し尚經費不足分一株廿五錢追徴の件を可決す

○十日 大坂市三十四日本共立日本共同の三銀行は委員會に於て合併の可議を為す

○十二日 神戸同盟銀行は通常總會に於て不渡手形の處

分方を協議し四月一日より厲行する事に決定に

○十四日 十五銀行は貸付割引日歩各一厘の引上を為に

○十六日 日本勧業銀行第一回勧業債券百萬圓の發行の
件認可せらる

○十八日 南海鐵道會社は總會に於て線路敷設の変更資
本金の増加増資の募集方等につき決議を

○十九日 日本海上保險會社ハ臨時總會を開き定款を改
正す

○十九日 阪鶴鐵道會社ハ臨時總會に於て資本不足額拾
五萬圓の社債を募集するに決を

○廿二日 房總鐵道會社ハ線路延長増資等を可決を

○廿四日 阪界鐵道會社ハ臨時總會を開き南海鐵道會社
ハ同鐵道譲渡小関する追加契約を可決し本年十月一

日を以て一坊の権利義務を南海鐵道會社に引渡すと
爲す

○廿四日 大坂の住友、北濱、共立、四十二、百三十の五銀行は
協議會を開き、阪鶴鐵道會社の社債全額を引受くると
決定す

○廿五日 横濱、蚕糸銀行は其筋の認可を得、資本六拾萬圓
を百萬圓と爲す

○廿六日 明治紡績會社は資本金百萬圓を八拾五萬圓に
減額すると可決す

○廿八日 大坂銀取引所は資本金を減して七萬五千圓と
爲す

○廿九日 東京米穀取引所の證據金の改正と爲す

○三十一日 京都市百十一銀行解散を命ぜらる

○三十一日 東京株式取引所小控には炭礦株壹萬七千餘
の大受渡につき賣方八株口を揃へしも買方は金策小
窮したるが為取引成立せし

○此月中 東京米穀取引所小控には賣方に立ちしもの自
然の大勢に反して相場を賣崩し却て大失敗を拓き其
極十六名の違約者相生し一時紛擾小甚し居るし又買
方及中立仲買人の仲裁より衆廿八日解合書の調印を
了り廿九日より立會を開きたり

○此月中 日本鐵道會社ハ機関方及火夫の委員と數回交
渉の上讓歩して請求の幾分を容れ待遇上名称の変更
給料増加等を為して紛擾事件殆ど落着け

○此月中 北越鐵道會社は社債券百八拾萬圓發行小控に
其筋の認可を受たり

○此月中 群馬縣農工銀行ハ創業總會ハ於テ同縣知事
の措置に対し株主の激昂を生じ遂に當日の決議を無
効として大藏省ハ開陳セラル至ル

四月

○一日 十五銀行ハ日本鐵道會社理事委員會と交渉の上
同會社重役撰擧の件ハつき同會社株主同盟會の提議
を却く

○二日 日本鐵道會社株主同盟會ハ會員協議の上獨立の
運動を以て重役を推擧するを決議す

○五日 東京株式取引所ハ仲買人總會を開き臨時調査員
を撰定し從來の整理委員と協同して炭礦株受渡不始
末事件の善後策を講ぜり

○六日 日本鐵道會社ハ臨時總會を開き重役の辞任を許

容し種々討論の末重役撰舉を行ひしに當撰者八十五銀行派と稱せらるゝもの稍多數あり又同撰舉不就てハ改撰ふるか將た補欠ふるか當時議論ありしを結局補として之を鮮明したりと云ふ

○八日 大阪京都兵庫和歌山岡山等の地方に於ける各紡績會社廿五社大阪小於て職工取締に関する特約案を議定に

○十日 平野紡績會社ハ野田紡績の全部買収を可決に
○十五日 北濱共立百三十住友の四銀行ハ坂鶴錢道の社債百三十萬圓引受の件を確定に

○十六日 東京株式取引所ハ整理委員の盡力により三拾五萬圓迄支出弁償するに決し賣方仲買人も之を承認を

○十八日 日本勧業銀行ハ第二回勧業債券百萬圓を發行

す

○十八日 東京株式取引所ハ俄然買方仲買人より故障の
申立有り仲裁全々破裂也

○十八日 日本郵船會社ハ外國同盟汽船會社と其運賃引
上に五分の開きを以て契約の取結を為す

○十九日 東京市久次米銀行ハ支拂停止を為す

○十九日 東京株式取引所ハ買方仲買人七名を違約處分
を付し又開始後の警戒として定款第百六条に據り増

證據金を徴収す

○十九日 東京米穀取引所ハ弊風を矯正し賣買を安全に
し市場の信用を増進するの目的を以て仲買人總會を
開き之に關する重要なる問題を議定す

○二十日 堂島米穀取引所ハ臨時總會を開き一二三月期取引紛紜の件ハつき一時仲裁人負擔の名義とふり居りし金額并償方と議決を

○二十二日 豊州錢道會社を株主總會に於て南豊錢道會社一同錢道讓渡の件と否決を

○二十二日 大坂製紙會社ハ定款を改正し資本金六拾萬圓を四拾六萬圓に減額せり

○二十五日 大坂銀行集會所に於ては印紙手形税の減額を出願する手形の裏書を一定する等決議を

○二十六日 中國錢道會社ハ定款を改正し株主を内地人小限りせんと爲す

○二十七日 京濱貯金銀行ハ布哇移民の貯金を預かりにつき全國移民會社と契約を結ぶ

○二十八日 京北鐵道會社ハ創業總會を開き定款確定の
件資本金百貳拾萬圓を九十五萬圓に減額の件等を可
決す

○二十九日 大坂附近の各紡績會社ハ協議の上日本勸業
銀行總裁小定款貸付額以上の融通を得んことを要請し
同總裁より右諸會社に向け紡績業小関する數項の
質問を發したり

○此月中 九所鐵道會社ハ若松門司馬関間ハ於ける石炭
及其他の貨物を運輸する為欠汽船數艘を備ふるべし
ふなり是を海陸運輸業兼營此嚆矢と為すと云ふ

五月

○一日 帝國東京日本日本海陸の四海上保險會社ハ聯合
規約に從ひ保險料及其取扱手續等を一定す

○八日 大日本綿糸紡績聯合會は輸入出小関する金融の
利便を圖ると印度棉花品位評定規約の件輸出綿糸受
渡期厲行の件綿糸輸出奨励案等を決議す

○九日 関東銀行會を東京小開く日本銀行總裁岩崎弥之
助臨場して金融上の演説を為す

○十一日 唐津鐵道會社ハ總會を開き同社財産を抵當と
して一時借入金をするに社債利子(九厘)を一割二分に
改むると等を決議す

○廿二日 東京株式取引所ハ臨時總會を開き仲買人違約
處分定款改正等につき討議するに議論沸騰し遂
に委員に附托して審査を乞ふと決り

○廿五日 大阪組合銀行集會所ハ例會を年四回即ち二、五
九、十二の四ヶ月に開會し重要問題なりとを臨時會を開

くゞ小決定を

○此月中 弘前市弘前銀行仕掛停止を為す

○此月中 八王子の織物仲買商城所某ハ振出手形ハ仕掛停止を為し破産の宣告を受く

○此月中 西部(九州、中國、四國)同盟銀行ハ播州舞子に聯合會を開き地租増徴農工銀行割増券發行償金運用の件等につき建議案を議定を

○此月中 中國地方の績紡會社ハ同盟を組織し資本金百萬圓借入の件を日本勧業銀行に申込みたりしも其請求ハ同行の規定ハ反きりとの理由を以て拒却せり

○此月中 平野、明治、福島ハ三紡績會社及大坂毛糸會社等ハ何處も日本勧業銀行より資本借入を為すハ為其定款を改正し器械代價償却元ニ損失填補ハ係る積立金

の積立を實行す

○此月中 神戸港居留清國商人は協議の上當分の内外國米の輸入を為さるゝとを約す

○此月中 臺灣鐵道會社ハ英國ピーコック會社と熟議と遂け千五百萬圓の外資借入の運とありたりと傳へらる

○此月中 北越鐵道會社々債券一回分八拾萬圓の募集と為さる結果甚た不良にして應募額貳拾五萬圓に過ぎけりといふ

○此月中 愛媛縣農工銀行ハ私法又ハ組合員の株式所有を許さるゝ農工銀行法に違背せりとの理由を以て設立申請書を却下せり

六月

○六日 日本勧業銀行ハ第三回勧業債券百萬圓を發行シ

○六日 東京大坂京都の三銀塊取引所ハ協議會を東京に

開キ營業細則其他諸規定ニ関シ議定スル所アリ

○十二日 第三十國立銀行ハ總會に於テ大阪興業銀行と
合併の件を承認ス

○十五日 横濱同伸會社ハ臨時總會を開キ不動産動産及
商標得意先等を舉ゲ拾萬圓、テ丸山某外五名ニ譲渡
スルに決定ニ

○十六日 横濱五品取引所ハ来七月以後預リ商品ニ對シ
る保險料及倉敷料を徴收スルと爲ス

○二十日 京都手形交換所ハ各種手形の混合取扱を創始
ス

○廿六日 東京株式取引所ハ臨時總會を開キ定款適用ニ

関し理事者の解釈を是認し又飲損金補填方法が就き
議定する所なり

○廿八日 久次米銀行ハ行務の整理を遂け再び開店を

○三十日 第三安田明治商業帝國商業北濱の五銀行ハ大
阪築港公債第二回募集残額百七拾萬参千餘圓を百圓
のつゝ九拾壹圓五拾銭の割合を以て引受くらふと決
定す

○此月中 堂島米穀取引所は同取引所倉庫ハ入庫する米
穀ハ保険を附するとし倉敷料を一ヶ月一石につき
拾参銭と改正を

○此月中 京都倉庫會社は火災保險會社と紛議を生し一
時京都市の金融界に阻碍を與へたり

○此月中 台灣小於茶業者は内地の同業者と氣脈を

通せんか為る北茶商公會を組織せり

○此月中 山陽鐵道會社を定款變更の件に就き其筋の認可を得り

七月

○一日 大坂市第百三十銀行の資本金百五十萬圓の私立銀行として營業を繼續す

○四日 東京銀塊取引所の資本減額を可決し四十萬圓を貳拾萬圓とふ

○四日 兵庫倉庫會社の荷主より無断に預入貨物を引出されりて發見し關係銀行間に一大紛擾を惹起せ

○八日 日本勸業銀行の臨時總會を開き去月廿三日假決議と爲る定款第四十七條改正の件を可決確定す

○八日 神戸生糸貿易期成同盟會ハ外商と交渉の末同港
小於て生糸取引を開始する、と、おせり

○九日 大阪エークス會社ハ約束手形支拂停止の爲破産
の宣告を受く

○十日 大阪株式取引所ハ臨時總會を開き仲買人不正地
所業處分方及仲買人証據金不足額補充の件に關する
定款の改正と決議を

○十五日 大阪商船會社ハ臨時總會小於て定款の改正を
決議し株主は帝國臣民に限ると株券は無記名式と爲
すを得る、と、す

○十五日 大坂銀取引所ハ發起認可の効力消失せしにつ
き更に發起認可を申請する

○廿八日 京都倉庫會社ハ臨時總會を開き受託貨物罹災

○ 保險金の代位賠償を履行する方法を決定し拾萬圓の社債を年六厘にて募集するを不す

○ 廿九日 高野鐵道會社ハ線路延長支線布設の爲社債ハ拾萬圓を募集するを決議す

○ 此月中 台灣鐵道會社ハ又亦設立延期の許可を得たり

○ 此月中 唐津興業鐵道會社ハ價格百圓以上年一割二分の利息を以て社債五拾萬圓の募集着手す

○ 此月中 農商務省ハ京濱兩市の各取引所業務に不都合の廉何りを認め各理事を召換し嚴達する所あり同達示に従ふときハ受渡ハ總て双方合意の場合と雖も役負立會の上現品の授受を要すと云ふ

八月

○ 一日 日本勸業銀行ハ第四回勸業債券發行の認可を得

○五日 浪華紡績會社は此月十日限り任意解散の假決議
を為し尋て總會の承認を得たり

○七日 北海道炭礦鐵道會社ハ總會を開き炭礦社債八拾
萬圓及鐵道部社債未償還額の内百萬圓ハ利益金并ニ
各種積立金と以て償還する可決を

○三十日 日本鑛鐵會社ハ臨時總會ふて資本金を拾萬圓
とし社名を日本鋼鐵株式會社と改稱を

○此月中 三井銀行ハ各地所在の支店ふ於て當座預金引
出小切手の仕拂保証を為すと、ふす

○此月中 播但鐵道會社ハ一割利付價格九拾五圓を以て
參拾六萬圓の社債を募集すると決定を

○此月中 山陽鐵道會社ハ山陽九所西鐵道の旅客貨物の
聯絡運輸開業ふつき大坂商船會社及関西同盟汽船主と

の間に競争の端を開き

○此月中 セメント製造の諸會社ハ各社長出資社員と
り資本金五萬圓ふて東京に本社を置き函館名古屋大
阪門司長崎の五ヶ所に支店を設置するを

○此月中 高野鐵道會社は一割利付の社債拾萬圓を募集
するに決定を

○此月中 伊賀勢和兩鐵道會社は何處も當事者の所置に
對し株主中に反抗者を生じ紛議小苦なり

○此月中 東京米穀取引所ハ格付小関し紛議を極え遂に
受渡米の解合談不調と爲り立會を停止するに至り

九月

○一日 大阪手形交換所ハ来る十月一日より不渡手形の
處分を厲行するを決定を

○一日 東京米穀取引所ハ此日穀會ハ十一月限より外國米の代用を廢止を

○二日 日本鐵道會社ハ定例理事委員會ハ於て改革の方針を決定し同時ニ其一二件を實行し始む

○二日 日本棉花同盟會ハ阪神間の内外棉花商小よつて發起せられり

○十五日 東京銀行集會所ハ定式集會に於て不渡手形處分解除の件ハつき嚴重なる改正案ヲ決議す

○十五日 三頭銀行ハ總會より任意解散ハ決を

○廿二日 吉備鐵道會社ハ同社の權利并ニ金圓物件を悉皆中國鐵道會社に讓渡すの件につき假決議を為す

○廿二日 中國鐵道會社ハ社債六拾萬圓募集の件を可決す

○廿五日 朝日紡績會社ハ解散を決議す

○廿五日 阪堺鐵道會社ハ此日限り解散し南海鐵道會社
に合併す

○廿六日 大阪銀行集會所ハ不渡手形ハ對する取締法を
議定す

○廿六日 東京十二商品取引所ハ農商務省より取引所法
第廿七条ハ依り營業の停止并ニ理事の解職を命ぜら
る

○此月中 京都倉庫會社對東京大災保險會社紛議事件ハ
関係荷主の委員双方ニ交渉して互ニ讓歩を為さる
た上落着と告ぐる

十月

○一日 東京府農工銀行ハ三井銀行ハ代り公金取扱事務

に服するものと、ふる

○二日 勢和鐵道會社ハ總會に於て解散を議決に

○四日 神戸チャータード銀行ハワールド商會の假倉庫

中ふ在る担保貸物の差押を為す

○七日 東京交換所組合銀行は總會ふ於て手形交換規則
を改正し代理交換規約を制定に

○七日 京都市日本貿易會社は破産の宣告を受く

○十日 横濱正金銀行ハ割引歩合貸付利子各々二厘宛の
引下を為す

○十日 東京海上外三海上保險會社は四社營業内規大綱
を制定す

○十日 大阪市第百三十銀行は當座貸越利子二厘方の引
下を為す

○十日 三井銀行ハ貸付日歩二厘方の引下を為す

○十四日 伊賀鐵道會社は株式の種類を改え又監査役の
被選權を制限するを小決す

○十五日 台湾鐵道會社は又亦設立の延期を許可せらる

○十五日 帝國商業銀行貸付日歩一厘乃至二厘を引下す

○十五日 東京銀行集會所は印紙稅法修正意見を決定に

○十六日 安田銀行貸付日歩三厘方の引下を為す

○十六日 大阪ふる三井銀行支店及北濱銀行ハ當座貸越
日歩二厘方の引下を為す

○十七日 関西鐵道會社の重役は西成鐵道買収の件を決
定す

○十七日 中國紡績會社は岡山市に會し夜業中
止を可決す

○十八日

河陽鐵道會社は解散を議決を

○十九日

明治平安金巾伏見の四紡績會社は細糸の相場
低落を防ぐか為賣價を引上げ信任金を供托し違約
の制裁を設定を

○二十日

九州地方の農工銀行は熊本に會し農工銀行に
於ても貯蓄事業を取扱ひ又割増券を發行すると債券
を改正し二十圓とする等につき其筋一請願する
とを決議を

○二十五日

十五銀行は定款を改正し重役の補缺撰舉を
行ふ

○二十六日

東京日本明治の三火災保險會社ハ從來の日
計特約保險方を廢し豫定額を以て保險料を徴収する
とを確定を

○廿七日 金邊鐵道會社は社債八拾萬圓を年一割とて
以て募集するを決定す

○廿八日 九州鐵道會社は旧肥後鐵道線路一部削除伊萬
里鐵道買収の二件及定款改正外資輸入等を可決す

○廿九日 大坂附近の酒造家ハ一割乃至三割の造石高減
額を決議す

○三十日 伊萬里鐵道會社ハ同社の鐵道全部を九州鐵道
會社に譲渡して同社と解散するに決定す

○此月中 富山縣各銀行同盟會を組織す

○此月中 三井銀行ハ當座預金一日の残高百圓未満のも
のハ利子と付せらるゝと來月一日より實行するを
決定す

○此月中 京都市農商銀行ハ總會を開き百萬圓を減資す

て六拾萬圓を為すに決む

○此月中 東京市明治銀行ハ東京興業銀行と合併し東京明治銀行と稱す

○此月中 山陽鐵道會社對同盟汽船の競争ハ獨り衆客に止まり延びて荷物に及ぶ迄運賃を引下りたり

十一月

○一日 台灣鐵道會社又亦設立延期の許可を得たりと云ふ

○一日 金市尼崎明治伏見の各中糸紡績會社ハ糸價低落の爲各社共紡績高四分一の減額を行ふ

○二日 大坂燐寸製造業者ハ産額減少の決議を爲す

○五日 関西鐵道會社ハ重役會より西成鐵道會社合併案を撤回す

○十日 吉備鐵道會社ハ線路讓渡の件ハつき臨時總會を開き株主中總會中止の處分を申請するものなり
て散會を

○十三日 全國農工銀行ハ大會を東京小開き全國農工銀行同盟會を組織し又農工銀行法修正追加案并府縣公金取扱小関する事項を議決を

○十五日 関西汽船主同盟本部小於て合併計算を復治を
○十五日 九州鐵道會社重役會議ハ船越鐵道買収の爲拾壹萬五千株の募集を本年六月の現在株主に對し募集する事を決定を

○十七日 甲武鐵道會社は十五日より業務の改革に着手し此日を以て終了し雇員百八拾餘名を解任を

○十七日 横濱米塩雜穀取引所ハ金庫費の増加に係る増

資の件を可決す

○十八日 東京馬車鐵道會社重役會議ハ五拾萬圓増資の件を内定し尋て大株主の承認を得たり

○二十日 奥羽北海道銀行會を福島に開き印紙稅改正此件を議決す

○二十日 東京馬車鐵道會社ハ乗車賃の直上を為す

○廿二日 横濱正金銀行ハ貸越日歩一厘を引下く

○廿三日 品川馬車鐵道會社は内訌の爲營業を休止す

○廿五日 日本郵船會社ハ臨時總會に於て同會社船舶保險と他ハ契約を爲すの必要に關し定款變更を議決す

○三十日 大阪ニ於ける紡績聯合臨時大會ハ夜業休止問題ニ就き議決す所あり

○三十日 大日本綿糸棉花中央同盟會ハ規約第九條の改

正案と可決し引續き解散案と可決す

○此月中 兵庫倉庫會社ハ負債償却方小つと審議し無利息五ヶ年賤ふて七拾五萬圓を支出すとに決せり

○此月中 第三安田ハ兩銀行ハ年一割利付申込價格九拾七圓五拾錢以上より中國鐵道會社々債六拾萬圓の募集を引受く

○此月中 山陽九州の兩鐵道會社ハ倫敦ふる資本家より參千萬圓迄の社債に應ずべき旨の回答を得たりと云ふ

十月

○十三日 日本勸業銀行ハ第一回及第二回債券の抽籤を行ふ

○十八日 大社兩山鐵道會社ハ任意解散を決議す

○廿一日 横濱銀塊取引所及商品取引所ハ何處の株主會
にて合同と可決を

○廿四日 関西鐵道會社ハ改革を決定し并々庶務規定を
改正す

○廿九日 大阪市三十四日本中立共同の三銀行ハ委員會
を開き合併事項につき決議し愈々来一月より合併營
業するものとふなり

○此月中 聯合紡績會は規約改正の件ハつき中國組と大
阪附近の各紡績會社との間に意見の衝突ありて紛議
を惹起なり

○此月中 京濱間の各銀行ハ本行の利子引下に引續き何
れも利子一厘乃至三厘方の引下を實行ふなり

○ 明治三十一年三月三十一日

○ 明治三十一年三月三十一日

○ 明治三十一年三月三十一日

○ 明治三十一年三月三十一日

○ 明治三十一年三月三十一日

○ 明治三十一年三月三十一日

○ 明治三十一年三月三十一日

○ 明治三十一年三月三十一日

○ 明治三十一年三月三十一日

○ 明治三十一年三月三十一日

○ 明治三十一年三月三十一日

第五章

外國貿易

第一節 輸出入

本年の外國貿易は昨三十年に一步を進み輸出入合計無慮六千八拾餘萬圓を増し但し貨物の輸出に係るもの僅か小貳百六拾餘萬圓を増加したる小過きされとも輸入は五千八百貳拾餘萬圓の巨額に達したるものとす蓋し廿九年以降輸入超過の大勢ハ一時に遏止せりるへき小ありたる小本年ハ昨年ハ非常に凶歉ありし後を承けしめて巨額の外國米を輸入せざるを得ざるに至りしと償金取寄新聞税實施の気構等にて諸品の輸入一時小増加せしむの事ありて斯くは輸入の超過を致ししものなり今其景況を表記すれを左の如し

輸出

輸入

輸出入超過

三	月	一、九四七、五〇二	五、八〇九、五五一	一四、八五五、四九	一四、四八、四七〇	一七、一九〇、〇九四	二、七〇八、七二四
四	月	一、五五五、八五一	五、八〇九、五五一	一四、八五五、四九	一四、四八、四七〇	一七、一九〇、〇九四	二、七〇八、七二四
五	月	二、五五五、八五一	五、八〇九、五五一	一四、八五五、四九	一四、四八、四七〇	一七、一九〇、〇九四	二、七〇八、七二四
六	月	三、〇八三、五一五	五、八〇九、五五一	一四、八五五、四九	一四、四八、四七〇	一七、一九〇、〇九四	二、七〇八、七二四
七	月	三、四八六、九四四	五、八〇九、五五一	一四、八五五、四九	一四、四八、四七〇	一七、一九〇、〇九四	二、七〇八、七二四
八	月	五、八〇九、五五一	五、八〇九、五五一	一四、八五五、四九	一四、四八、四七〇	一七、一九〇、〇九四	二、七〇八、七二四
九	月	一四、五五八、一九一	五、八〇九、五五一	一四、八五五、四九	一四、四八、四七〇	一七、一九〇、〇九四	二、七〇八、七二四
十	月	一五、二四三、八五一	五、八〇九、五五一	一四、八五五、四九	一四、四八、四七〇	一七、一九〇、〇九四	二、七〇八、七二四
十一	月	一七、八〇九、五五一	五、八〇九、五五一	一四、八五五、四九	一四、四八、四七〇	一七、一九〇、〇九四	二、七〇八、七二四
十二	月	一八、〇三七、五九七	五、八〇九、五五一	一四、八五五、四九	一四、四八、四七〇	一七、一九〇、〇九四	二、七〇八、七二四
合計		一五、五五五、八五一	五、八〇九、五五一	一四、八五五、四九	一四、四八、四七〇	一七、一九〇、〇九四	二、七〇八、七二四

一	月	七、三、七、五、六	八、七、八、五、二	九、七、九、五、九、四	一、〇、一、五、〇、二、五、二	八、五、五、一、二、六、二
二	月	九、九、七、五、一、二	八、五、七、四、九、五	九、一、四、〇、一、九	三、三、五、七、三、五	八、〇、八、八、三、八、六
三	月	一、五、四、五、九、四、九、七	九、七、八、三、六、〇	一、四、四、八、一、一、三、七	二、三、三、八、五、四	八、四、五、六、四、七、一
四	月	一、八、一、〇、七、四、〇、〇	四、五、二、〇、四、三	一、七、五、五、五、三、五、七	二、二、二、四、三、九	八、〇、八、九、一、三、六
五	月	八、五、七、七、二、五、六	五、五、〇、二、五、八	七、九、五、五、九、八、二	四、一、五、八、三、九	一、五、五、八、五、〇、八、五
六	月	五、五、九、八、四、一、八	一、〇、〇、八、二、五、四	四、五、九、〇、一、五、四	一、四、四、四、六、五、七	一、八、五、五、九、〇、九、九
七	月	九、三、四、五、七、五、四	二、五、一、三、八、一、三	五、二、六、七、〇、五、九	五、五、一、五、四、七	一、三、三、三、六、七
八	月	二、五、七、七、九、九、五	一、五、八、五、五、五、八、二	一、四、二、四、八、五、八、七	三、〇、七、五、二、五	五、九、三、五、五、二
九	月	五、八、一、四、五、九、二	三、二、四、五、三、七、九	三、五、五、八、二、一、三	一、九、四、九、五、八	四、〇、一、七、三、七、五
十	月	三、三、九、九、八、三、九	四、五、八、九、二、五、三	一、一、八、九、四、一、四	二、五、三、五、五、二、八	四、五、五、九、八、五、三
十一	月	五、八、八、五、〇、四、五	二、二、九、五、七、六	四、八、五、五、四、九、九	四、九、五、〇、五、〇、八	一、四、五、五、五、八、七
十二	月	一、四、五、八、四、二、三	一、三、七、三、九、〇、〇	八、四、五、二、三	五、五、三、〇、三、六、二	五、七、五、一、八、二
合	計	八、六、八、八、七、四、八、一	四、三、五、五、三、七、八、一	四、四、四、二、三、七、〇、〇	一、九、二、一、九、一、五、三	八、一、四、五、五、五、一、三
						五、二、二、四、七、五、五、〇

前表を見るに輸出ハ全年を通し大勢に於て漸次増加し輸入は年首より漸次増加して五月に至り其最高額を示し爾後漸減に就き十二月に至り新関税實施の氣構よりて少し復増加せり而して輸出入の権衡を見るに九月に至る迄ハ前年の趨勢を持続し依然として逆運の中に在りしも十月より一變して漸く順況に復せり尤も十二月より既に跡を如き事實ありしより亦て頗る輸入品の増加を来し其結果として復た逆況を呈せりしも大勢は將に益々我々順ふらんとするの兆候を有して越年一たり次々金銀ハ七八十の三月に於てのみ輸入超過となり他ハ總て輸出超過となり

又輸出入品中價額百萬圓以上のものを擧げて前年と比較すれば左の如し

輸出品

	本年		前年		比較増減額
	數量	價額	數量	價額	
生糸	四八三七、三二九	四二、〇四七、四一一	二〇八二、五三二	一三、五八三、〇四九	
熨斗糸及原	四、〇九七、七九九	二、九五五、九三一	二八八、一九三	三、五四、〇四二	
羽二重	七八七、一一七	一、二〇五、五五五	一四四、三一七	二、五二四、八二九	
絹製手巾	一、二五四、八八七	三、五五五、一一四	九六、九七四	一、五四、九六八	
綿織糸	九八、八三三、七五三	二〇、一一六、五八五	二九、七九八、七八八	九、六二六、三八八	
綿布類		一、九三七、二二〇		五八、一五五	
マツ子	二二、〇七八、三二二	六、二七三、九四八	二、五三四、七一五	六三一、九五五	
地氈		三、九三八、四五〇		七、五、七一二	
磁器及陶器		一、九九〇、七八〇		一、七一、七一九	
麦桿稟田	六、九六一、一二五	二、四〇四、タロニ	七九九、二五九	七七七、九一三	
製茶類	三二、八二二、六三二	八、二一五、六五四	一、七〇六、〇五一	三、五五、二〇四	

輸入品				輸出品			
品名	數量	價額	前年	品名	數量	價額	前年
米	一、五九〇、二八	五九三、一八五	二四四、九〇九	生銅及熟銅	二七、四二二、八六〇	一、二九七、〇七四	一、四九二、三七五
錫	一、〇四六、四二〇	一、二九八、二五七	一、〇四七、二三六	樟腦	二、四三四、〇三八	一、一七四、二一四	一、四七三、七一九
石炭	二、一八六、七九〇	一、五、一八六、七九〇	八三、七七八	其他諸雜貨	—	—	—
合計	—	一、五、七五三、七五二	—	合計	—	一、五、七五三、七五二	—
生金巾	五九、二四〇、九〇一	四、三八二、五〇九	八、四九〇、二五五	生金巾	五九、二四〇、九〇一	四、三八二、五〇九	八、四九〇、二五五
綿織糸	一、五九二、九六一	八、五四七、五八八	一、五九二、九六一	綿織糸	一、五九二、九六一	八、五四七、五八八	一、五九二、九六一
綵綿	二、四九七、二四七	四、四一〇、四七五	—	綵綿	二、四九七、二四七	四、四一〇、四七五	—
夏紗	一、一四九、五九八	一、一七五、七八九	二、二四三、二五三	夏紗	一、一四九、五九八	一、一七五、七八九	二、二四三、二五三

綿繻子諸親	八、七五七、三二	一、五四五、三二九	七〇五、八八五	一、五二、七四三
其他諸綿布	二八、六三九、七九	三、七五九、三三七	一一、三二八、三八五	二〇五、五九二
麦粉及穀粉	三八、九五五、五一〇	二、〇三六、八二五	一、五三〇、八、〇三九	八五〇、九七三
乾 藍	一、八〇五、二七五	二、二七〇、八一四	五、一、一四二	七三三、七九三
酒 精	二九、七三三、〇四八	二、九九九、九八二	二九、七三三、〇四八	二、九九九、九八二
アリソ染料	一、三五六、七三九	一、二一八、八四二	二八、九八八	二八七、五四五
豆 類	二、四〇五、五〇七	七、一〇七、一〇三		二、一〇七、四八六
紙卷烟草	七二一、八四七	一、七二五、八二七		七二三、五九〇
塊 鐵	一〇五、五五九、三二	一、三八七、四四二	三二、九三三、二九八	四四七、四三二
條鉄及竿鐵	二二、六三三、七四二	四、〇五、八〇五	二八、五五七、五九六	一、〇一五、六七三
鐵 板	五、〇三三、〇四七	二、二七、八七一	一一、二二二、八三二	五、四九、九五八
鐵 釘	二、三、九三三、二〇八	一、一五〇、三四二	大、三三三、九三五	三〇八、七五五
筒鉄及竿鉄	四、五三七、七七一	一、三三二、九四〇		四三八、三九九

軌 條	一、二、一、五、四、四、五	二、五、三、七、三、一	二、五、一、七、四、九、九	六、九、三、二、八、四
其他鉄及鋼	五、八、一、五、九、二、三、五	三、〇、七、二、方、一	七、一、四、〇、五、五、五	五、五、六、〇、七、八
石 油	五、七、九、九、四、五、五	七、五、五、二、八、七、九	五、八、四、二、三、八	二、一、四、四、七、二
靴底皮其 他皮	二、七、二、三、八、四、五	七、七、九、七、〇、九、九	五、八、四、三、五、一	三、八、二、〇、〇、五
客 車		五、四、三、四、五、九、八		二、九、三、二、〇、八
機械諸類		八、五、二、〇、五、九、九		三、五、七、〇、三、九、九
油 糟	六、一、〇、一、四、一、〇	四、五、一、四、九、五、七		七、二、九、九、三、八、〇
印刷料紙	三、七、七、九、八、一	六、二、八、三、二、一、四	二、一、八、一、五、七、三、三	七、四、二、五、二、五、七
米	一、一、五、九、九、二、五、二	四、八、二、一、九、八、一、〇	五、三、九、四、八、五、八	二、六、六、九、一、三、八、一
砂 糖	四、三、五、四、〇、五、三	二、八、三、八、九、〇、三、五		八、三、八、五、九、三、五
懷中時計	五、三、一、三、七、二	二、九、九、〇、二、一、一	二、二、五、四、五、八	七、五、八、三、九、八
羊 毛	二、八、三、八、八、〇、一	一、五、四、二、八、一、九	一、三、五、三、一、五	五、八、九、三、三、七
フラン セル	三、五、九、五、七、〇	七、三、五、九、三、七	四、八、一、〇、三、五	一、七、二、三、八、一

イタリヤ、クロス	三、四八四、九二〇	一、〇五八、二七〇	三、四八四、九二〇	四、〇五八、二七〇
縮緬吳絨	二、四、九二四、四三九	四、四〇八、七五二	三、三一六、六一九	五、七二、八七一
羅紗	二、三二三、七五五	二、八〇三、六〇七	七、一〇、五四三	八、五〇、〇七五
其他諸雜貨		五八、五九九、五五四		一三、五八七、三八八
合計		二七七、五〇二、一五五		五八、二〇一、三八四

前表輸出品中、在りて價額の最多を占むるものハ生糸の
 四千貳百四萬餘圓にして之を前年に比するハ千參百五拾
 八萬餘圓と減少なり其他熨斗糸及屑糸外三品ハ前年に比
 し何れも數拾萬圓を減少し其増加するものゝては綿織糸
 の貳千拾壹萬餘圓を最高とし之を前年に比するに六百六
 拾貳萬餘圓を増加し石炭羽二重雜貨生銅及熟銅等之ハ次
 き其外數拾萬圓の増加を為するもの尙ほ三品あり又輸入
 品中の最高額と顯はせるものは米の四千八百貳拾壹萬餘

圓よりて昨年より比すに貳千六百六拾九萬餘圓を増し次
き小雜品より於ては千貳百五拾八萬餘圓砂糖より於ては八百
参拾八萬餘圓を増し其他百萬圓以上増加のものは八品
より之に対して減額せるものは機械諸類の参百七拾七萬餘
圓と始より百萬圓以上のもの二品其下のもの五品あり
とす

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十	三十一	三十二	三十三	三十四	三十五	三十六	三十七	三十八	三十九	四十	四十一	四十二	四十三	四十四	四十五	四十六	四十七	四十八	四十九	五十	五十一	五十二	五十三	五十四	五十五	五十六	五十七	五十八	五十九	六十	六十一	六十二	六十三	六十四	六十五	六十六	六十七	六十八	六十九	七十	七十一	七十二	七十三	七十四	七十五	七十六	七十七	七十八	七十九	八十	八十一	八十二	八十三	八十四	八十五	八十六	八十七	八十八	八十九	九十	九十一	九十二	九十三	九十四	九十五	九十六	九十七	九十八	九十九	一百
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----

第二章 外國為換相場

本年中金貨國に對する為換相場は常に微小の高低を示しに止まりしも銀貨國に對する為換相場に至つては主として銀價の高低に隨ひ多少の變動ありきを得る今倫敦市場銀塊相場は就て之を察するに昨年八月の暴落以降容易に回復の色あり漸く十二月に至りて廿六片台となり爾後復た下落に向ひ本年五月の初より漸次騰貴し下半季に入りては常に二十七片の間を昇降し先づ近來の好相場を以て本年を終り蓋し印度の需要前年より多額ありしと米國の賣出を控へ勉えて供給の需要に超過するを防きたりしと尚ほ一ハ西班牙政府が戰後正貨の取付に應ずる為西班牙銀行をして大に銀塊の購入を為さしめたる等に因るものありん右銀塊相場騰貴の結果として我が對清為換ハ

82

下半年季小於ては漸く低落の大勢を現けしありとの如し
 茲小本年中の倫敦上海及香港爲換相場并小倫敦銀塊
 相場を擧ぐれば左の如し

倫敦爲換相場

月	本年			前年ト比較高低		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均
一月	二〇 五/八	一八 一/四	一八 五/八	二〇 五/八	一八 五/八	一八 一/八
二月	二〇 一/四	一八 一/四	一八 一/四	二〇 五/八	一八 五/八	一八 一/八
三月	二〇 一/四	一八 五/八	一八 一/四	二〇 五/八	一八 五/八	一八 五/八
四月	二〇 三/八	一八 一/八	一八 三/八	二〇 五/八	一八 五/八	一八 五/八
五月	二〇 五/八	一八 一/八	一八 一/四	二〇 五/八	一八 五/八	一八 一/四
六月	二〇 五/八	一八 五/八	一八 五/八	二〇 五/八	一八 五/八	一八 五/八
七月	二〇 五/八	一八 五/八	一八 五/八	二〇 五/八	一八 五/八	一八 五/八
八月	二〇 五/八	一八 五/八	一八 五/八	二〇 五/八	一八 五/八	一八 五/八

上海為替相場

九月	十月	十一月	十二月	全年	一月	二月	三月	四月	五月	六月
最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高
最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均
前年ト比較高低	前年ト比較高低	前年ト比較高低	前年ト比較高低	前年ト比較高低	前年ト比較高低	前年ト比較高低	前年ト比較高低	前年ト比較高低	前年ト比較高低	前年ト比較高低
最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高	最高
最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低	最低
平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均	平均

				香港為替相場							
四月	三月	二月	一月	最 低	最 高	平 均	前 年 比 較 高 低	全年	十二月	十一月	十月
九三 五〇	九二 〇〇	九三 二五〇	九五 〇〇	九二 〇〇	九四 〇〇	九三 二五	五七 五	八 一 〇	七五 一	七五 一	七五 一
九四 五〇	九四 五〇	九五 五〇	九六 五〇	九四 五〇	九六 五〇	九五 五〇	五七 五	七五 一	七五 一	七五 一	七五 一
九三 五二	九三 二五	九三 三七	九七 〇〇	九三 二五	九七 〇〇	九三 三七	五七 五	七五 一	七五 一	七五 一	七五 一
五七 五	七五 五	二五 五	五〇 五	五七 五	七五 五	二五 五	五七 五	七五 一	七五 一	七五 一	七五 一
五五 五	五五 五	五五 五	五五 五	五五 五	五五 五	五五 五	五七 五	七五 一	七五 一	七五 一	七五 一
五八 八	五八 八	五八 八	五八 八	五八 八	五八 八	五八 八	五七 五	七五 一	七五 一	七五 一	七五 一

倫敦銀塊相場

年	月	本年		前年ト比較		平均
		最高	最低	最高	最低	
五月	五月	九二七五	九三二五	六七五	六七五	六八二
六月	六月	九三〇〇	九三〇〇	七〇〇	六七五	六八四
七月	七月	九三〇〇	九三〇〇	二〇〇	四〇〇	三三三
八月	八月	九三〇〇	九三〇〇	二〇〇	〇五〇	三三二
九月	九月	九三〇〇	九三〇〇	二〇〇	一〇〇	四三一
十月	十月	九四〇〇	九三〇〇	二〇〇	一〇〇	
十一月	十一月	九五〇〇	九三二五	一五〇	〇二五	〇三一
十二月	十二月	九六二五	九三〇〇	一五〇	三二五	二二九
全年	全年	九三〇〇	九三〇〇	二〇〇	一七五	二八〇
二月	二月	二五 ^片 / _{一四}	二五 ^片 / _八	三 ^片 / _二	四 ^片 / _{一五}	四 ^片 / _{一四}
一月	一月	二五 ^片 / _三	二五 ^片 / _八	三 ^片 / _{一六}	三 ^片 / _{一六}	三 ^片 / _{一六}
平均	平均	二五 ^片 / _八	二五 ^片 / _八	二五 ^片 / _八	二五 ^片 / _八	二五 ^片 / _八

三 月	四 月	五 月	六 月	七 月	八 月	九 月	十 月	十 一 月	十 二 月	全 年
二、 五、 〇	二、 六、 一、 四	二、 六、 三、 四	二、 七、 一、 二	二、 七、 三、 八	二、 七、 七、 八	二、 八、 七、 五	二、 八、 一、 四	二、 八、 七、 五	二、 七、 七、 八	二、 八、 七、 五
二、 五、 〇	二、 五、 七、 八	二、 五、 七、 八	二、 六、 二、 五	二、 七、 〇	二、 七、 一、 五	二、 七、 七、 八	二、 七、 七、 五	二、 七、 七、 八	二、 七、 七、 八	二、 五、 〇
二、 五、 一、 五	二、 五、 七、 八	二、 六、 七、 五	二、 七、 一、 五	二、 七、 七、 五	二、 七、 七、 五	二、 八、 〇	二、 七、 七、 五	二、 七、 七、 五	二、 七、 七、 五	二、 五、 一、 五
三、 五、 七、 五	二、 六、 一、 四	二、 六、 〇	二、 六、 一、 四	二、 六、 七、 五	二、 六、 一、 四	二、 六、 七、 五	二、 六、 一、 四	二、 六、 七、 五	二、 六、 一、 四	二、 六、 一、 四
三、 五、 七、 五	二、 六、 一、 四	二、 六、 一、 四	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五
三、 五、 七、 五	二、 六、 一、 四	二、 六、 一、 四	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五	二、 六、 七、 五

第六章 彙録

第一節 法令

法律

五月廿六日

第一号生糸直輸出獎勵法廢止

(二十五日)

六月六日

第二号日本勸業銀行法中改正

(四日)

六月九日

第三号北海道官設鐵道會計ニ関する件

(八日)

六月十一日

第五号一圓銀貨幣引換ニ関する件

(十日)

六月十一日

第六号政府發行紙幣通用廢止ニ関する件

(十日)

六月廿一日

第十五号競賣法

六月廿五日

第十七号臺灣銀行法中改正

(二十四日)

七月廿八日

第三号水害地方地租特別處分法

(二十七日)

十二月廿八日

第三号酒造税法中改正

(二十七日)

十二月三十日

第三号田畑地價脩正の件

(二十九日)

十二月三十日

第三十二号

地租條例中改正

(二十九日)

勅令

三月廿一日

第六十七号

明治卅一年度歲出豫算中第一豫備金と以て補充し得べき費途の件(廿一日)

三月廿一日

日佛通商航海條約 (三十日)

四月六日

第六十九号

臨時秩祿處分調查委員會規則 (五日)

四月六日

第七十号

貨幣整理資金特別會計規則中改正 (五日)

四月十五日

第七十三号

郵便貯金利子割合改正 (十四日)

六月廿五日

日暹脩好通商航海條約 (廿四日)

七月八日

第百廿九号

開港々則 (七日)

七月十五日

第百四十号

収入印紙小関寸石件 (十四日)

八月二日

第百八十三号

塩業調査會規則 (一日)

九月二日

第二百一十号

銀行條例貯蓄銀行條例及銀行合併

法と臺灣小施行 (一日)

九月十日 第二百八号 関稅定率法施行の件 (九日)

九月十日 日澳洪通商航海條約 (九日)

九月十六日 第二百十三号 臺灣に關稅定率法施行 (十五日)

九月廿一日 第二百十七号 貨幣小関する明治三十年勅令第百

四十四號中改正 (二十日)

九月廿六日 第二百二十号 輸入物品從量稅目小関する件 (廿四日)

十月廿二日 第二百六十号 大藏省官制改正

十二月二十日 萬國郵便條約 (十九日)

十二月三十日 日佛追加條約 (廿九日)

十二月三十日 日獨追加約定 (廿九日)

豫算

六月一日 明治卅一年度歳入歳出總豫算追加

(五月三十日)

六月 九日

明治三十一年度歳入歳出總豫算追加 (八日)

六月十八日

明治三十一年度歳入歳出總豫算追加
加元明治三十一年度各特別會計歳入歳出豫算追加 (十七日)

七月十五日

明治三十一年度特別會計歳入歳出豫算追加 (十四日)

七月廿六日

明治三十一年度歳入歳出總豫算追加 (二十四日)

七月廿八日

同上 (二十七日)

七月廿八日

明治三十一年度特別會計歳入歳出豫算追加 (廿七日)

正月廿八日

同上

(二十七日)

豫算外契約

六月十八日

豫算外國庫の頁擔やふるへき契約
をなすを要する件 (十七日)

正月廿八日

同上

(二十七日)

茅二豫備金支出

一月八日

明治三十年度茅二豫備金支出 (茅九四)

一月八日

臺灣總督府特別會計明治三十年度

茅二豫備金支出 (茅五四)

二月七日

明治三十年度茅二豫備金支出 (茅十四)

二月七日

臺灣總督府特別會計明治三十年度

茅二豫備金支出 (茅六四)

五月十二日

明治三十一年度茅二豫備金支出 (茅四)

五月十二日	臺灣總督府特別會計明治卅一年度 茅二豫備金支出 (第一回)
七月四日	明治卅一年度茅二豫備金支出 (第二回)
七月四日	臺灣總督府特別會計明治三十一年 度茅二豫備金支出 (第二回)
八月五日	明治卅一年度茅二豫備金支出 (第三回)
九月五日	同上
九月五日	臺灣總督府特別會計明治卅一年度 茅二豫備金支出 (第三回)
十月五日	明治卅一年度茅二豫備金支出 (第四回)
十月五日	臺灣總督府特別會計明治卅一年度 茅二豫備金支出 (第四回)
十月五日	北海道災害費外十四件支出

十月五日

臺灣風水害復舊工事費支出

中央備荒儲蓄金支出

一月八日

明治卅年度中央備荒儲蓄金支出

一月八日

東京盲啞學校資金部歲出豫算超過

支出

二月七日

明治卅年度中央備荒儲蓄金支出

二月七日

貨幣整理資金特別會計歲出豫算超過

過支出

三月八日

明治卅年度中央備荒儲蓄金支出

三月八日

東京盲啞學校資金部歲出豫算超過

支出

三月廿二日

諸耕戾金外二十二件支出

三月廿二日

官設錢道用品費豫算超過支出

九月 五日

明治卅一年度中央備荒儲蓄金支出

律令

四月 八日

第一號糖業稅則中改正

(三月廿六日)

四月 廿五日

第三號契稅規則中改正

(十四日)

八月 二日

第十二號私設鐵道會社小関する律令

(七月十六日)

八月 二日

第十七號台灣地方稅規則

(七月十九日)

八月 十七日

第十九號一圓銀貨無制限通用小関する件

(七月廿四日)

省令

(内務省)

八月 五日

第五號保險營業の件

(大藏省)

二月 十九日

第一號酒精營業稅法施行細則中改正

四月 廿三日

第四號保管物取扱規程中改正

六月廿二日

第六号出納官吏現金取扱規則中改正追加

七月八日

第八号特別輸出港輸出物品

(農商務省)

三月三十日

第三号生糸直輸出獎勵法施行細則

(逋信省)

二月二日

第三号郵便貯金條例施行細則中改正

五月三日

第七号同上

五月二十日

第七号同上

十月八日

第廿号航海獎勵法に依り保護と受く船舶

船舶郵便物運送規則

十一月十一日

第廿八号郵便貯金條例施行細則中改正

臺灣總督府令

四月廿五日

第十八号糖業稅則施行細則中刪除

八月 八日

第六十一號 臺灣地方稅賦課規則 (七月廿三日)

八月 八日

第六十二號 臺灣地方稅徵收規則 (七月廿三日)

八月 卅一日

第八十三號 臺灣茶業取締規則 (八月十八日)

訓令

(內務省)

二月 卅一日

第二號 臺灣歲入取扱規程中改正

二月 卅一日

第三號 臺灣經費取扱順序中改正

(大藏省)

一月 二十日

第三號 政府極印付一圓銀貨出納計算整理

手續中追加

二月 三日

第六號 各裁判所寄託し、假納金及

民事豫納金取扱方

二月 廿六日

第十一號 國稅徵收事務取扱上諸帳簿及報告

書

三月十七日

第十七號 內國稅徵收費配賦并取撥順序改正

三月十八日

第十八號 稅關經費配賦并取撥順序改正

五月四日

第三號 預金保管物及供託物金庫出納事務

規程中追加

五月十一日

第四號 在臺灣各支金庫歲入歲出金等整理

方

五月三十日

第九號 諸收入取納取扱規定中追加

六月十三日

第四十一號 臺灣總督府所屬郵便為換貯金の出

納官吏に於て取扱ふ政府極印付一

圓銀貸出納計算整理手續

七月六日

第四十八號 歲入歲出年度科目所管廳誤記訂正

手續改正

七月廿五日

第五十三号臺灣小在勤する出納官吏に於て取

扱ふ一圓銀貨出納計算整理手續

九月十日

第六十号經費諸拂度及欲損補填金の款中諸

拂度金の配賦并請求方小関する取

扱方

九月十七日

第六十二号經費任拂豫算を以て任拂命令を委

任したる任拂命令濟額報告書調製

及報告方

十月廿五日

第六十五号金庫出納事務規定中改正

會計検査院達

二月廿二日

第一号造幣局金銀地金出納證明規程改正

三月十七日

第二号株式會社日本勧業銀行より證明す

一、収入支出計算書式

三月三十日

第三号貨幣整理資金歲入調定額證明程式

三月三十日

第四号貨幣整理資金支出證明程式

三月三十日

第五号貨幣整理資金收入及現金出納證明

程式

四月廿一日

第六号金庫出納內譯書中掲載方

告示

(大藏省)

一月廿二日

第一号金庫位置及出納區域變更

一月廿二日

第二号五分利公債證書發行

二月四日

第五号公債證書買入銷却

二月八日

第六号公債證書發行

三月一日

第八号内外貨幣比較表

三月十四日

第十一号軍事公債證書發行
(十二日發行)

三月三十日	第廿一号	五分利公債證書發行	(廿九日發行)
三月卅一日	第廿二號	軍事公債證書發行	(三十日發行)
四月五日	第廿六號	公債證書買入銷却	
四月十二日	第廿九號	公債證書買入銷却	
四月十六日	第卅二號	金庫位置及出納區域表中改正削除	
四月二十日	第卅三號	公債證書買入銷却	
四月廿三日	第卅四號	同上	
五月十二日	第卅八號	同上	
五月十七日	第卅九號	同上	
五月卅一日	第卅十號	同上	
六月一日	第卅三號	內外貨幣比較表	
六月十五日	第卅九號	一圓銀貨幣引換方	
六月廿七日	第卅十號	五分利公債證書發行中改正	

九月 一日 第六十三号 内外貨幣比較表

九月十七日 第六十七号 明治廿九年度備荒儲蓄金出納決算

の要領

十月廿五日 第七十四号 公債證書發行

十一月 一日 第七十七号 内外貨幣比較表

十一月 卅日 第八十二号 官設保稅倉庫敷料定率表中改正

(農商務省)

二月十四日 第四号 取引所地區指定

五月十四日 第十四号 同上

八月十九日 第十九号 同上

(逓信省)

四月 五日 第九十一号 聯合各國貨幣比例表中改正

十一月廿八日 第一百二十三号 貸車貸切貸改正及貸物貸金割引規

程中改正

(臺灣總督府)

二月十二日 第六号兌換銀行券を以て政府極印付一圓

銀貨と交換請求方

四月八日 第十八号一圓銀貨收受の件 (三月十五日)

八月十七日 第四十八号一圓銀貨幣兌換價格

八月十七日 第四十九号政府の極印付一圓銀貨幣兌換價格改

正

九月九日 第六十号兌換銀行券交換請求方

十二月八日 第八十七号一圓銀貨の價格改正

十二月八日 第八十八号政府の極印付一圓銀貨幣の價格改

正

第二節 内地雜件

一月

○一日 英照皇太后御大喪中、小付諸官衙各銀行會社とも一般小年賀を廢す

○五日 第五回全國實業家大會を東京に開く

○六日 全國農事大會を東京に開く

○十日 内閣組織に關し御前會議を開く

○十一日 英照皇太后御一周年祭に相當するを以て諸官

衙銀行會社等何れも臨時休業を為す

○十二日 新内閣組織せられ伊藤博文總理大臣となる

○十九日 臺灣銀行創立委員會を大藏省に開く

○廿六日 鐵道會議を開く

二月

52

○九日 宮内大臣土方久元罷免田中光顯之小代石

○十七日 山階宮晃親王殿下薨去せうせう三日間歌舞
音曲停止

○廿六日 臺灣總督乃木希典罷免陸軍中將兒玉源太郎其
後を襲く

三月

○十五日 衆議院議員選舉を行ふ

○廿二日 農商工高等會議々長以下の氏名官報小上る

○廿五日 樞密院會議を開き條約改正問題につき協議を

四月

○二日 臺灣協會發起會を開く

○三日 鐵道協會發起會を大坂小開く

○五日 貴衆兩院議員及在野の有志者相會し東洋問題

小つき決議する所なり

○八日 茶業中央會議所臨時會第一回を農商務省内小開

○十日 眞都三十年祝賀會を二重橋外小執行を

○同日 関西及九州蚕糸業者協議會を神戸小開く

○十五日 大坂市小於て大坂經濟會發起會を開く

○同日 第五回取引所聯合會を大坂小開く

○十七日 以後三日間豊太閣三百年大祭を西京小執行を

○十九日 製茶検査所設置の件認可するを

○同日 自由黨本部ハ各地支部へ向け政府へ提携断絶の通知を發す

○廿三日 大日本水産會第十六回大會を東京に開く

○同日 北海道各地洪水氾濫の電報到る

○廿三日 東京府下實業家有志團體委員大藏大臣を訪問し公債償還方に関し陳述する所あり

○廿四日 日本海運同盟會春季總會を大坂小開く

○廿六日 農商務大臣伊東巳代治罷免金子堅太子其後任と爲る

○廿七日 伯爵板垣退助外資輸入私設鐵道幹線買上に関し演説する所あり

○廿八日 國民協會員大藏大臣を訪問し財政上の質問を爲す

○廿九日 東京市會は第三回東京市公債貳百萬圓募集の件を可決す

○三十日 米西開戦小對し局外中立の詔勅を發せり

五月

○一日 對外同志大懇親會を東京に開く

○四日 東京府下の實業家八相會し鐵道買上、外資輸入日本銀行貸出方寛和等につき議する所あり

○六日 名古屋市電気鉄道開通を

○七日 清國債金壹千萬磅ハ倫敦に於て同壹百萬磅ハ伯林に於て受取済むる

○同日 神戸市開港三十年紀念會を舉行を

○九日 在沙市帝國領事館ハ同地暴民ハ為る小焼き拂はる

○十日 日露兩國間議定書公布する

○十二日 臺灣銀行創立委員會を開く

○十三日 鐵道會議を開く

○同日 經濟研究會ハ債金利用、外債募集鐵道買収等につ

き意見書と内閣各大臣及貴衆両院議員に送呈す

○十六日 長崎商品陳列所開場式と舉ぐ

○十九日 第十二議會開院式舉行す

○二十日 商業會議所第七回定期聯合會と横濱に開く

○廿一日 全國酒造組合聯合會と東京に開き増稅反對に

つき議する所あり

○廿二日 伊勢大廟火災あり

○廿三日 威海衛引渡相濟み我守備兵同地を引揚ぐ

○廿七日 第十回鐵道懇話會と札幌に開く

○卅一日 愛知縣會ハ熱田築港費として貳百五拾萬圓支

出及縣債募集方法と可決す

六月

○四日 新瀉縣直江津大火約二千戸焼失す

○五日 大雨各地水東海道錢道不通てふる

○六日 米國に於ける製茶課税案上院通過の報到る

○八日 茶業中央會議所は米國大統領及兩院議長等に向
け製茶課税に對する久對意見を電致を

○九日 政府八日本銀行より直接に公債買入に着手を

しむ

○十日 衆議院解散を命ぜりる

○十二日 大日本塩業協會第二次大會を開く

○十五日 大坂市に於て商品研究會發會式を舉行を

○十七日 錢道會議を開く

○廿二日 憲政黨結黨式を舉行を

○三十日 内閣更迭あり伯爵大隈重信板垣退助等入閣を

七月

○五日 全國茶業大會を三重縣津小開き製茶課稅久對運
動を決定す

○八日 福井縣下洪水福井市以北の汽車不通とあり

○十三日 臨時政務調査委員の任命あり

○十七日 泐典實施の通知書を各國に發送す

八月

○六日 臺灣暴風雨あり

○十五日 布哇談判落着の報到る

○十七日 農商工高等會議員の任命あり

九月

○一日 横濱神戸兩港の稅務管理局を置く

○七日 東海道以東各地に暴風雨あり

○十六日 東京市會特別稅案を可決す

○十九日 塩業調査會を農商務省内に開く

○廿七日 足尾銅山礦毒被害民多数入京に

○廿九日 税関長會議を開く

十月

○七日 大藏大臣松田正久の金融意見各新聞小上る

○十日 公債買入を停止を

○廿日 農商工高等會議を開く

十一月

○一日 行政改革實施をりふ

○八日 内閣大臣更迭より山縣有用總理大臣とふる

○全日 農商工高等會議を長ハ決議此條項を答申す

○十三日 東京市開廳式を行ふ

○廿日 全國酒造大會と東京に開く

○廿三日 茅十一回鐵道懇話會を高松市小開く

十二月

○五日 第六回全國實業大會を開く

○六日 貴衆兩院議負ハ債金献納建議案を可決す

○十日 東京市會は東京馬車鐵道會社乗車賃錢増額の認

可取消請求の件を可決す

○十五日 非地租増徴大會解散する

○同日 地租期成同盟大會と東京に開く

○廿日 地租増徴及地價修正案衆議院を通過す

○廿一日 會計検査院長渡邊昇罷去

○今日 鐵道會議開會

○廿三日 男爵山田信道會計検査院長とあり

○廿四日 保證準備擴張、日本銀行課税案衆議院を通過す

第三節 外事要目

一月

○四日 清國政府ハ英國政府ニ對シ一大讓歩して外債を倫敦に募集せんと欲せむ

○五日 清國政府ハ九十九ヶ年の期限を以て山東省膠州灣を獨逸國に貸與す

○七日 清國政府は外債募集に關する露國政府の提議を拒却す

○十七日 清國駐在佛露兩國公使は清國公債引受に對する英國の要求を否認す

○全日 英國に於ける機械職工同盟罷業調停を

○全日 佛國ニ於てはセシナツク民族ニ反對せる示威運動起り巴里里昂馬耳塞等各地騒然たり

○廿日 濠洲連邦問題協議會開會

○廿一日 印度小於て金券發行條例採用せらる

○此月 佛國はツレフユース事件の爲人心動揺す

○此月 獨逸帝國銀行ハ其割引利子五分を引下け四分を
爲る

二月

○十四日 韓國小於て露韓銀行開業す

○十五日 米國軍艦ノリン号はキエバ嶋ハバナ港碇泊中

俄然爆發破壊して乗込員二百四十餘名死亡す

○廿二日 韓國皇帝の生父大院君李昱應薨去

○廿四日 英國政府ハ露國ハ清國占領地を自由に開放を
へしとハ約束を爲せる旨を其國會小報表せり

○廿八日 英獨兩國政府ハ清國公債千六百萬磅を四分五

厘利付四十五ヶ年の期限と以て引受けたり

○此月 各國保證の希臘公債募集せらる

○此月 加奈太に於て鐵道競争起る

三月

○二日 清國政府は昭信公債(内國債)募集規則を發布す

○七日 清國政府は旅順口及大連灣と九十九ヶ年間露國

小貸與す

○九日 米國大統領マツキンレー氏は國防費五千萬弗支

出の件を裁可す

○今日 孟買に於て黒死病檢疫方失當せし為る土人の一

揆起り鐵道停車場紡績所等の職工相替ひて同盟罷業をふ

す

○十二日 露國政府ハ韓國在任の財政顧問及陸軍教官を

百還屯

○此月 合衆國金を吸収屯

四月

○一日 英國サウス・ウエルスの石炭礦夫同盟罷業を為す

○九日 露韓銀行廢業す

○廿二日 米西兩國交戦の端を開く

○廿八日 英佛諸國中立を宣言屯

○廿九日 米國代議院臨時軍事費歳入法案を可決屯

○此月 歐洲列國ハ米西事件ハ関し米國を強迫する所

ありとす

○此月 英蘭銀行ハ其割引利子三分を引上げて四分と為

す

五月

- 一日 米國艦隊ハマニラ於て西班牙艦隊を撃破す
- 八日 伊國に内乱起り人民殺戮多し者百餘名
- 十一日 布哇政府改正酒類輸入税と施行す
- 十九日 英國のグラフトストーン逝去
- 廿四日 英國威海衛を占領す
- 此月 英米兩國間の國交親密を加ふ
- 此月 「フランスバール」英國の覇權を脱せんを企つ
- 此月 西班牙の財政危機に陥り同國公債暴落す
- 此月 英蘭銀行其割引利子四分を引下けて三分五厘と爲す

六月

- 二日 印度ペシヤワール市大火災殆んど全焼小歸を
- 十三日 米國大統領は新戦税案と裁可を

○十五日 米國代議院、布哇合併案を通過す

○廿三日 米國兵キエハ島サンケアゴ附近に上陸す

○廿四日 西班牙議會解散せり

○廿月 サルベードル、ホンシエラス及ニカラガ諸國の毒
負マナグワに會し連邦憲法組織小付協議す

○此月 英蘭銀行は其割引利子三分五厘を引下けて二分
五厘と爲す

七月

○一日 清英兩國ハ威海衛條約の調印を了す

○七日 米國大統領布哇合併案を裁可す

○十七日 サンケアゴ米軍の爲久ハ占領せり

○十四日 米國政府ハ三分利付軍事公債(貳億弗)の募集と
締切を申上總額約拾參億弗以上あり

○廿六日 西班牙政府ハ佛國公使の手を経て媾和談判と
米國小開く

○廿七日 清國政府は造艦費徴収の件小つき上諭と各省
將軍總督巡撫に傳達を

○三十日 獨國のビスマルク公薨去

○以月 智利國財界に恐慌起る

○以月 印度公債の（六百万磅）募集を締切る應募額四
倍に達す

八月

○十日 米西兩國平和假條約に調印す

○十二日 米布合併公布式布哇政廳に於て執行せらる

○十四日 馬尼刺港通商貿易港として開放せらる

○廿七日 露國外務大臣マルビーフ伯皇帝此命に従ひ萬

國平和會議を勧誘す

○卅一日 英國南ウエルスに於ける石炭坑夫罷業同盟を解く

○此月 智利及アルゼンチン兩國の國境調査委員集會す
九月

○四日 英兵及埃及兵カーブムに入る

○五日 ウェルヘルミナ女皇和蘭國王とふろを承諾す

○今日 獨國政府ハ北米合衆國に對し関稅輕減を自國にも均霑せらんとを請求す

○十日 奧太利女皇ゼノアハ於て伊國無政府黨員の暗殺する所と爲る

○十一日 英領西印度に大暴風あり人家數千を破壊し死
亡五百人あり

○廿六日 萬國平和會議をチエリンに開く

○廿月 クリート島に反乱起る

○廿月 米國盛に金を吸収す

○廿月 英蘭銀行其割引利子二分五厘を引上げて三分と
為す

十月

○十一日 土耳其政府クリート島を抛棄する事に同意す

○十八日 米軍サンジャーン及ホルトリコ小合衆國々旗
を揚ぐ

○二十日 佛國政府ハ清國ハ対し宣教師虐殺事件の賠償
及將來の保証を要求す

○廿一日 合衆國平和條約協定委員ハ合衆國が比律賓嶋
を領有する事を請求す

○此月 佛國ハ於てはヅレフエース事件再審に附せらる

○此月 ロカ中將アルゼンチン大統領と為る

○此月 英蘭銀行ハ四分に獨逸帝國銀行ハ五分に佛蘭西

銀行ハ三分ハ各其割引利子を引上げたり

十一月

○二日 露國の軍艦旅順に集り英國の軍艦威海衛に艤装す

○廿八日 西班牙の平和會議負合衆國の提議に全意す

○此月 佛國フアシヨダより撤兵す

○此月 米國に錢道株の投機記る

○此月 獨逸帝國銀行ハ其割引利子を五分五厘に引上げ

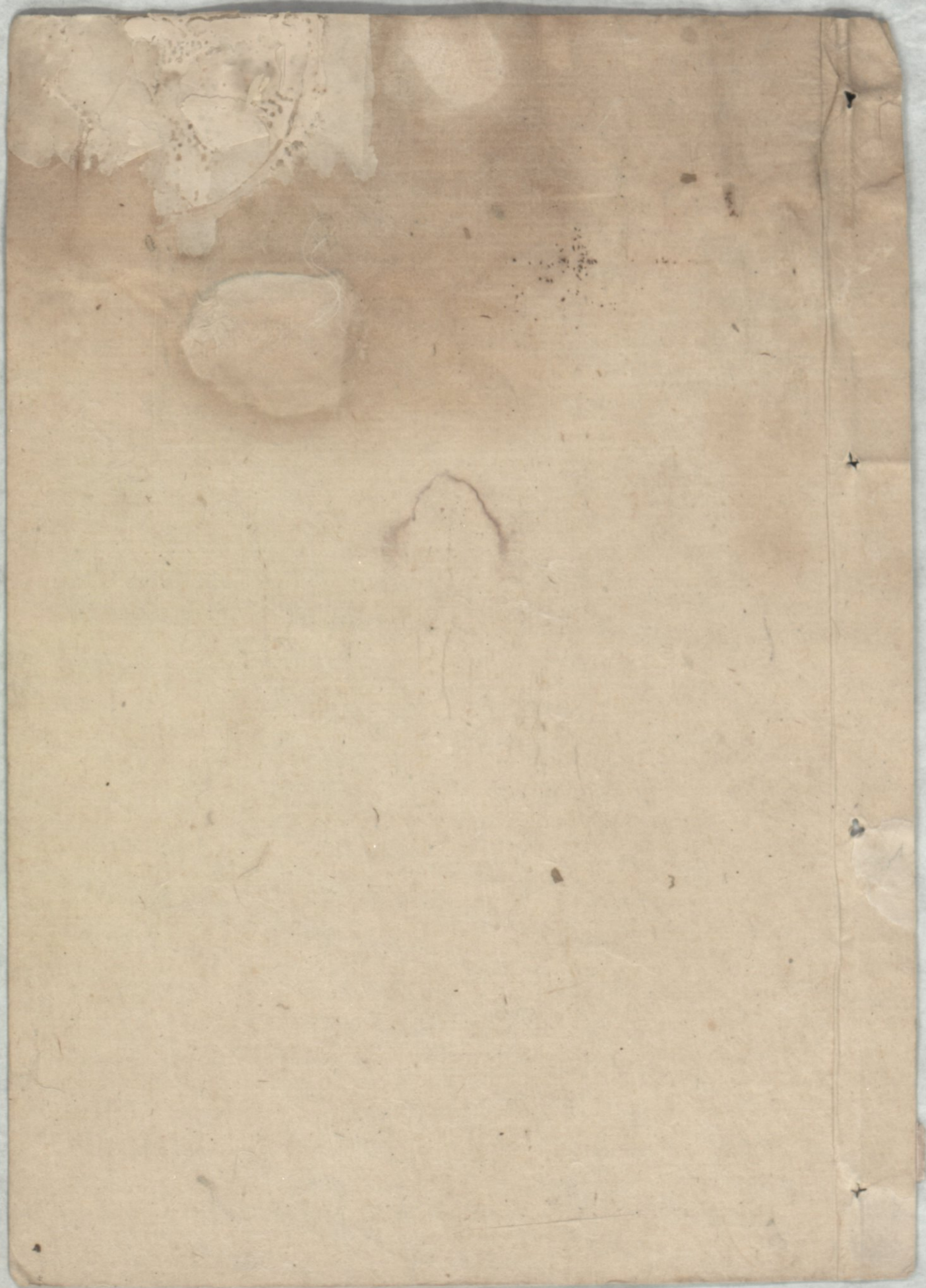
更に六分に引上げたり

十二月

○三日 ニカラガ政府完全なる主權を回復する旨宣言す
○十日 巴里に於ける米西兩國委員平和條約に調印す
○十五日 佛國代議院印度支那鐵道敷設費貳億法貨付法
案を可決す

○十六日 米國下院ハ全國の税関及歳入法を布哇に適用
するを可決す

○廿六日 比律賓島の反徒イロイロ市を占領す



大正	十一年	受
永	年	存
簿	第 65	號
5	冊之內	2
第	5	圖